基礎分野

基礎分野（ 科学的思考の基盤・人間と生活 ）　人文

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
人文科学 Ⅰ	1	(前期)・後期	(講義)・実習	藤原 和彦 小坂 真由美

授業の目標

医療の国際化、次世代の医療現状に対応する国際語として臨床的な英語を身につける。

授業の概要

資料をもとに基礎英語、基本的な医学英語、英会話について指導する。

また、必要に応じ視聴覚教材（映画等）を使用し英語への関心を深める。

授業計画

第１週　アイスブレイク
第２週　スポーツトレーナー学（１）　スポーツトレーナーとは
第３週　スポーツトレーナー学（２）　スポーツトレーナーの技術を学ぶ
第４週　スポーツトレーナー学（３）　スポーツ現場での英会話
第５週　医療現場での英会話（１）
第６週　医療現場での英会話（２）
第７週　医療現場での英会話（３）
第８週　医療現場での英会話（４）
第９週　医療現場での英会話（５）
第 10 週　日常生活での英会話（１）
第 11 週　日常生活での英会話（２）
第 12 週　英語で学ぶ時事問題（１）
第 13 週　英語で学ぶ時事問題（２）
第 14 週　英語で学ぶ時事問題（３）
第 15 週　まとめ

テキスト

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

基礎分野（ 科学的思考の基盤・人間と生活 ）　人文

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
人文科学 Ⅱ	1	前期・(後期)	(講義)・実習	関根　剛 黒川　勲 伊藤　安浩

授業の目標

教養としての心理学・哲学・教育学の基礎について学ぶ。さらに、将来臨床の現場で遭遇すると思われる様々な状況について考察・研修するための思考法の基礎を習得する。

授業の概要

テキストや資料を用い各学問の基礎、ならびに、臨床の現場で遭遇すると思われる様々な状況について考察・研修する方法について説明する。

授業計画

第１週　心理学とは
第２週　感情、情緒とは
第３週　心の発達
第４週　対人行動の心理
第５週　集団行動の心理
第６週　哲学の誕生
第７週　西洋哲学
第８週　現代哲学
第９週　哲学における死の問題
第 10 週　人間の自覚と社会性
第 11 週　教育とは
第 12 週　子ども観の変遷
第 13 週　各国の家族観（アメリカ、韓国、日本）
第 14 週　人間にとっての教育とは
第 15 週　教育に関する法律の動向

テキスト

基礎講座　哲学：木田　元・須田　朗 監修　メヂカルフレンド社

教材・参考文献

あなたのこころを科学する Ver３：林　智一・有馬比呂志・他 著　北大路書房

成績評価の方法

定期試験およびレポートの成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

基礎分野（ 科学的思考の基盤・人間と生活 ）　自然

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
生　物　学	1	(前期)・後期	(講義)・実習	笹尾　裕人

授業の目標

生命の科学について学び､医学を学んでいくために必要な人体の構造と機能に関する基本的な知識を習得する。

授業の概要

テキストを用いて人体の構造と機能に関する項目を説明する。

授業計画

第１週　　生命認識の歴史
第２週　　細胞の成り立ち
第３週　　代謝
第４週　　消化と吸収
第５週　　刺激の受容と反応
第６週　　ホルモンによる生体機能の調節
第７週　　免疫反応（侵入物に対する生態防衛）
第８週　　生命の連続性と遺伝
第９週　　遺伝の仕組みと調節
第 10 週　ヒトの遺伝
第 11 週　ヒトの発生
第 12 週　生物の発生・分化のしくみ
第 13 週　生命の寿命とバイオテクノロジー
第 14 週　ウィルス
第 15 週　地球環境と人間

テキスト

看護学生のための生物学：堀　輝三・巨智部直久 著　医学書院

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

基礎分野（ 科学的思考の基盤・人間と生活 ）　自然

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
スポーツ健康科学Ⅰ	1	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者(柔道整復師) 中尾　幸雄 牧　将太

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

運動器の解剖学的、生理学知識を学び、各種トレーニング法の基礎や有効性を習得する。

授業の概要

各種資料を用いて運動器について説明を行う。各種トレーニング法を紹介し、実際に行うことで習得を目指す。

授業計画

第１週　骨格系の構造と機能
第２週　筋系の構造と機能
第３週　神経系の構造と機能
第４週　心臓血管系の構造と機能
第５週　呼吸器系の構造と機能
第６週　生体エネルギー機構
第７週　エネルギーの供給と消費
第８週　有酸素性代謝と無酸素性代謝
第９週　バイオメカニクスの基礎
第 10 週　身体動作のバイオメカニクス
第 11 週　レジスタンストレーニング
第 12 週　有酸素性持久力トレーニング
第 13 週　オーバートレーニング
第 14 週　パーソナルトレーニングにおける栄養
第 15 週　パーソナルトレーナーのための運動心理学

テキスト

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

基礎分野（ 科学的思考の基盤・人間と生活 ）　自然

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
スポーツ健康科学 Ⅱ	1	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者(柔道整復師) 中尾　幸雄 牧　将太

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

前期で習得したトレーニング法の基礎知識をもとに、対象者に適したトレーニングの構築法を習得する。

授業の概要

トレーニング対象者をシミュレーションし、トレーニングメニューの構築法や有効性を検証する

授業計画

第１週　対象者の面談と健康評価
第２週　体力評価の選択と管理
第３週　筋力と筋持久力
第４週　柔軟性トレーニング
第５週　基本的なエクササイズトレーニング
第６週　心臓血管系のトレーニング方法
第７週　レジスタンストレーニングのプログラムデザイン
第８週　有酸素性持久力トレーニングのプログラムデザイン
第９週　プライオメトリックトレーニングのプログラムデザイン
第 10 週　スピードトレーニングのプログラムデザイン
第 11 週　プライオメトリックドリルとスピードドリル
第 12 週　特定の対象者シミュレーション①（子ども、高齢者、妊婦）
第 13 週　特定の対象者シミュレーション②（栄養と代謝に問題を抱える対象者）
第 14 週　特定の対象者シミュレーション③（各種の疾患を有する対象者）
第 15 週　特定の対象者シミュレーション④（アスリート）

テキスト

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

基礎分野（ 科学的思考の基盤・人間と生活 ）　自然

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
スポーツ健康科学 Ⅲ	2	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者(柔道整復師) 中尾　幸雄 小坂 真由美

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

医療現場・スポーツ現場など様々な分野に従事する医療人として、幅広い知識を習得するとともに多角的な視点を身につける

授業の概要

実践・実技・グループワークを通じて他者の考え方やアプローチ法を学ぶ。また、幅広い学問や技術を取り上げ多角的な視点を養えるよう授業を進める。

授業計画

第１週　　アイスブレイク・レクリエーションとは
第２週　　アイスブレイクとレクリエーションの計画
第３週　　アイスブレイクとレクリエーションの実施
第４週　　ストレッチとヨガ（１）呼吸法
第５週　　ストレッチとヨガ（２）上半身
第６週　　ストレッチとヨガ（３）下半身
第７週　　高齢者の介護（１）高齢者の身体的特徴を学ぶ
第８週　　高齢者の介護（２）介護計画と介護の実施
第９週　　高齢者の介護（３）機能訓練とリハビリテーション
第 10 週　栄養学（１）栄養素の特徴と役割
第 11 週　栄養学（２）食事と栄養障害
第 12 週　栄養学（３）アスリートに必要な食事について考える
第 13 週　調理実習　　栄養素とカロリー
第 14 週　スポーツ実習（１）バレーボール：跳躍で起こりやすい外傷について
第 15 週　スポーツ実習（２）バスケットボール：ターン動作で起こりやすい外傷について

テキスト

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

基礎分野（ 科学的思考の基盤・人間と生活 ）　自然

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
スポーツ健康科学 Ⅲ	2	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者(柔道整復師) 中尾　幸雄 小坂 真由美

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

医療現場・スポーツ現場など様々な分野に従事する医療人として、幅広い知識を習得するとともに多角的な視点を身につける

授業の概要

実践・実技・グループワークを通じて他者の考え方やアプローチ法を学ぶ。また、幅広い学問や技術を取り上げ多角的な視点を養えるよう授業を進める。

授業計画

第１週　医療費と療養費
第２週　医療における法律
第３週　マッサージと東洋医学（１）マッサージの種類と効果
第４週　マッサージと東洋医学（２）東洋医学の種類と効果
第５週　スポーツマッサージ
第６週　パソコン（１）基礎（ワード・エクセル・パワーポイント）
第７週　パソコン（２）医療現場で必要なスキル
第８週　パソコン（３）プレゼンテーションの実践
第９週　スポーツ実習（１）ウォーミングアップとクールダウンの計画と実践
第 10 週　スポーツ実習（２）外傷に対する判断と処置
第 11 週　救急法（１）熱中症に対する応急処置
第 12 週　救急法（２）頭部外傷（脳震盪）・胸部外傷に対する応急処置
第 13 週　救急法（３）蘇生法
第 14 週　まとめ（１）講話：医療現場で活躍する卒業生から学ぶ
第 15 週　まとめ（２）講話：スポーツトレーナーとして活躍する卒業生から学ぶ

テキスト

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
解剖学（内臓系・神経系）	1年	[前期]・後期	[講義]・実習	髙井　教行

授業の目標

解剖学は、人体の仕組みを研究する学問であり、医学・医療の基礎とされ、肉眼解剖学と顕微鏡解剖学（組織学）に大別される。柔道整復師として必要な解剖学特に内臓系・神経系の基礎的知識を習得する

授業の概要

人体が細胞から構成され、細胞の集まりが組織である。人体を構成する組織が上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の４つからなり、これらの組み合わせによって、臓器（器官）があり、さらに器官系（運動器系、神経系、循環器系、呼吸器系など）からなる。ここでは組織学総論を含め内臓系と神経系を学習する。

授業計画

第１週　人体解剖学の概説と細胞の構造と機能
第２週　組織の分類と上皮組織の形態・機能
第３週　支持組織の分類と結合組織、軟骨組織、骨組織形態と機能
第４週　血液の分類、形態・機能、造血
第５週　筋組織の分類と各筋の形態的特徴
第６週　内臓学　循環器系・呼吸器系
第７週　内臓学　消化器系・内分泌系
第８週　内臓学　泌尿生殖器系
第９週　内臓学　感覚器
第１０週　神経組織の分類と形態、神経膠（グリア）形態・機能および血液脳関門
第１１週　中枢神経系の一般、脳脊髄膜、脳脊髄液
第１２週　中枢神経系、大脳、間脳、脳幹(中脳、橋、延髄)、小脳、脊髄の構造・機能
第１３週　伝導路(反射路、上行性伝導路，下行性伝導路)
第１４週　末梢神経系、脳神経、脊髄神経(頸神経、胸神経)
第１５週　末梢神経系、脊髄神経（腰神経、仙骨神経、尾骨神経）自律神経（交感神経幹、副交感神経）

テキスト

「解剖学」社団法人全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社

教材・参考文献

人体のふしぎ　講談社、
入門組織学　南江堂

成績評価の方法

定期末試験（中間・期末）の結果にて評価を行う
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
解剖学（運動器、骨格系）	1年	[前期]・後期	[講義]・実習	実務経験者（柔道整復師） 重石　雄大

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

人体の支柱となる器官が骨格である。さらに、運動は、骨と筋肉の組み合わせによってなされている。柔道整復師として極めて重要な運動器系の骨に関する基礎的知識を習得する。

授業の概要

人体が２００余個の骨からなり、大きく体幹と四肢の骨からなることを学ぶ。体幹と四肢の骨の名前、形、数を覚える。さらに、骨の連結の仕組みを理解する。結果的に、柔道整復師として必要な骨格系の専門的知識を養う。併せて、関節を構成する靭帯についても学ぶ。

授業計画

第１週　骨格系の総論、　骨の数、形、一般的構造、発生と発達
第２週　体幹と体肢を構成する骨名と数
第３週　頭蓋を構成する骨名と数および孔や窩の役割
第４週　骨学実習
第５週　脊柱を構成する骨名と数、各椎骨の特徴およぶ脊柱の湾曲
第６週　脊柱管と椎間孔の役目および脊柱の靭帯と動き
第７週　胸郭を構成する骨名、数、役割
第８週　骨盤を構成する骨名、数、男女差
第９週　骨学実習
第１０週　上肢を構成する骨名、数、役割
第１１週　下肢を構成する骨名、数、役割
第１２週　骨の連結の分類と関節の分類，形態、機能
第１３週　関節の補助装置
第１４週　肩関節、股関節、膝関節の形態と機能
第１５週　まとめ

テキスト

「解剖学」社団法人全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社

教材・参考文献

日本人体解剖学上巻（骨、筋、神経系）　南山堂

成績評価の方法

定期末試験（中間・期末）の結果にて評価を行う。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

骨格連結模型や骨標本を使った骨学実習を併用する。

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教官
解剖学（運動器、関節運動）	１年	前期・[後期]	[講義]・実習	実務経験者（柔道整復師） 重石　雄大

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

柔道整復師として必要な人体解剖学、関節の構造や運動などの基礎的、専門的知識を習得する

授業の概要

運動器は、骨の基礎的・専門的知識のもとに関節を学ぶことによって初めて理解できる。関節の一般的な構造、形，動きについて学ぶ。さらに、全身の関節系の名称、それらを動かす筋肉の作用を把握する。局所解剖的に血管や神経との位置関係についても併せて理解する。

授業計画

第１週　　関節総論　骨の連結
第２週　　関節総論　関節の分類（構成する骨の数・形状・軸）
第３週　　関節各論　顎関節の構造と運動
第４週　　関節各論　体幹の関節の構造と運動
第５週　　関節各論　胸鎖関節の構造と運動
第６週　　関節各論　肩鎖関節の構造と運動
第７週　　関節各論　肩関節の構造と運動①
第８週　　関節各論　肩関節の構造と運動②
第９週　　関節各論　肘関節の構造と運動
第１０週　　関節各論　手関節・手指関節の構造と運動
第１１週　　関節各論　股関節の構造と運動
第１２週　　関節各論　膝関節の構造と運動①
第１３週　　関節各論　膝関節の構造と運動②
第１４週　　関節各論　足関節・足指関節の構造と運動
第１５週　　総復習

テキスト

「解剖学」　社団法人全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社

教材・参考

日本人体解剖学上巻（骨、筋、神経系）　南山堂
解剖学カラーリングテキスト　南江堂

成績評価の方法

定期末試験（中間・期末）の結果にて評価を行う
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考　　体表観察を併用して学習する。

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教官
解剖学（運動器、筋系）	２年	[前期]・後期	[講義]・実習	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

柔道整復師として必要な人体解剖学運動器、筋系の基礎的、専門的知識を習得する

授業の概要

運動器は、骨の基礎的、専門的知識のもとに筋系を学ぶことによって初めて理解できる。筋肉の一般的な構造、形，起始、停止、腱の役割について学ぶ。さらに、全身の筋系の名称、それらの起始・停止・作用・神経支配を把握する。局所解剖的に血管や神経との位置関係についても併せて理解する。

授業計画

第１週　骨格筋一般（形，起始、停止、作用、神経支配、腱、筋膜）
第２週　頭頚部部の筋：顔面筋、咀嚼筋、胸鎖乳突筋、頸動脈三角、顎下三角、斜角筋裂
第３週　胸部の浅筋：大胸筋、小胸筋、前鋸筋、補助呼吸筋
第４週　胸部の深筋：外肋間筋と内肋間筋（胸式呼吸）、横隔膜（腹式呼吸）
第５週　腹部の筋：腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋、鼠径管
第６週　腹部の深筋：大腰筋（二足歩行）、腰方形筋と背部の筋
第７週　背部の浅い筋：僧帽筋、広背筋、菱形筋、と深い筋：脊柱起立筋（最長筋、腸肋筋、棘筋)、
第８週　体表観察
第９週　上肢帯、上腕の屈筋と伸筋
第１０週　前腕の屈筋と伸筋、手の筋
第１１週　下肢帯の筋：大殿筋、中殿筋、梨状筋、大坐骨孔
第１２週　大腿の屈筋（ハムストリング）と伸筋（大腿四頭筋）、大腿三角
第１３週　下腿の屈筋（下腿三頭筋、アキレス腱）と伸筋（前脛骨筋）
第１４週　足の筋、偏平足、外反母趾
第１５週　体表観察

テキスト

「解剖学」　社団法人全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社

教材・参考

日本人体解剖学上巻（骨、筋、神経系）　南山堂
解剖学カラーリングテキスト　南江堂

成績評価の方法

定期末試験（中間・期末）の結果にて評価を行う
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

体表観察を併用して学習する。

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教官
解剖学（運動器、筋系）	２年	[前期]・後期	[講義]・実習	実務経験者（柔道整復師） 中尾　幸雄

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

柔道整復師として必要な人体解剖学運動器、筋系の基礎的、専門的知識を再確認したうえで、触診の技術を学ぶ。

授業の概要

運動器は、骨の基礎的。専門的知識のもとに筋系を学ぶことによって初めて理解できる。筋肉の一般的な構造、形，起始、停止、腱の役割について学ぶ。さらに、全身の筋系の名称、それらの起始・停止・作用・神経支配を把握する。局所解剖的に血管や神経との位置関係についても併せて理解する。

授業計画

第１週　触診総論
第２週　頭頚部の筋の触診
第３週　胸部の筋の触診
第４週　外肋間筋と内肋間筋（胸式呼吸）、横隔膜（腹式呼吸）時の筋運動の確認
第５週　腹部の筋の触診
第６週　背部の筋の触診
第７週　腰部の筋の触診
第８週　上肢帯の筋の触診
第９週　上腕部の筋の触診
第１０週　前腕部と手部の筋の触診
第１１週　下肢帯（臀部）の筋の触診
第１２週　大腿部の筋の触診
第１３週　下腿部の筋の触診
第１４週　足部の筋の触診
第１５週　総復習

テキスト

「解剖学」　社団法人全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社

教材・参考

日本人体解剖学上巻（骨、筋、神経系）　南山堂
運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢・下肢）　メディカルビュー

成績評価の方法

定期末試験（中間・期末）の結果にて評価を行う
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

体表観察を併用して学習する。

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教官
解剖学（運動器、筋系）	2 年	前期・[後期]	[講義]・実習	実務経験者（柔道整復師） 甲斐　優太郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

柔道整復師として必要な人体解剖学・運動器、筋系の基礎的、専門的知識を習得し、国家試験対策につなげる。

授業の概要

運動器は、骨の基礎的。専門的知識のもとに筋系を学ぶことによって初めて理解できる。筋肉の一般的な構造、形，起始、停止、腱の役割について学ぶ。さらに、全身の筋系の名称、それらの起始・停止・作用・神経支配を把握する。局所解剖的に血管や神経との位置関係についても併せて理解する。

授業計画

第１週　　総復習　骨格筋の特徴と性質
第２週　　総復習　頭頚部部の筋
第３週　　総復習　胸部の浅筋：大胸筋、小胸筋、前鋸筋、補助呼吸筋
第４週　　総復習　胸部の深筋：外肋間筋と内肋間筋（胸式呼吸）、横隔膜（腹式呼吸）
第５週　　総復習　腹部の筋：腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋、鼠径管
第６週　　総復習　腹部の深筋：大腰筋（二足歩行）、腰方形筋と背部の筋
第７週　　総復習　背部の筋：僧帽筋、広背筋、菱形筋、脊柱起立筋（最長筋、腸肋筋、棘筋）、
第８週　　総復習　体表観察（体幹と上肢）
第９週　　総復習　上肢帯、上腕の屈筋と伸筋
第１０週　　総復習　前腕の屈筋と伸筋、手の筋
第１１週　　総復習　下肢帯の筋：大殿筋、中殿筋、梨状筋、大坐骨孔
第１２週　　総復習　大腿の屈筋（ハムストリング）と伸筋（大腿四頭筋）、大腿三角
第１３週　　総復習　下腿の屈筋（下腿三頭筋、アキレス腱）と伸筋（前脛骨筋）
第１４週　　総復習　足の筋、偏平足、外反母趾
第１５週　　総復習　体表観察（下肢）

テキスト　　「解剖学」　社団法人全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社

教材・参考

日本人体解剖学上巻（骨、筋、神経系）　南山堂
解剖学カラーリングテキスト　南江堂

成績評価の方法

定期末試験（中間・期末）の結果にて評価を行う
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考　　体表観察を併用して学習する。

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
解剖学（局所解剖、実習）	3 年	[前期]・後期	[講義]・実習	実務経験者（柔道整復師） 甲斐　優太郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

解剖学は、器官系（骨格系、筋系、神経系、血管系、消化器系）の講義である。柔道整復師学は実践を重んじている学問であり、局所解剖を十分理解する必要がある。

授業の概要

骨格系、筋系、神経系、血管系を統合した講義を行う。特に、体幹支持と動き、肩関節、肘関節、股関節および膝関節の局所解剖を理解する。また、運動系に関連する骨、筋肉､腱､靭帯、関節軟骨光学顕微鏡下で観察し、これらの組織構造を理解することによって関節運動の仕組みをより深く理解する。

授業計画

第１週　体幹を構成する骨の連結と靭帯
第２週　体幹の支持と動きを支配する筋肉
第３週　椎間孔と脊髄神経および椎間孔と椎間円板との関わり
第４週　肩関節を構成する骨とそれを支える靭帯
第５週　肩関節の動きに関連する筋肉、神経、血管
第６週　肘関節を構成する骨とそれを支える靭帯
第７週　肘関節の動きに関連する筋肉、神経、血管
第８週　股関節を構成する骨とそれを支える靭帯
第９週　股関節の動きに関連する筋肉、神経、血管
第１０週　膝関節を構成する骨とそれを支える靭帯
第１１週　膝関節の動きに関連する筋肉、神経、血管
第１２週　上行性伝導路､下行性伝導路、反射路の解説
第１３週　赤筋と白筋の違い（腓腹筋とヒラメ筋の光学顕微鏡観察）
第１４週　腱、靭帯、関節軟骨の組織構造（講義と光学顕微鏡観察）
第１５週　まとめ

テキスト

「解剖学」社団法人全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版株式会社

教材・参考文献

人体のしくみ、講談社

成績評価の方法

定期末試験（中間・期末）の結果にて評価を行う。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

骨格連結模型およぶ関節模型を活用する

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
解剖学	3	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

１．柔道整復の専門基礎・専門科目の習得に必要な基本的な用語を理解する。

２．生体の観察・計測等に必要な基本的知識について理解する。

授業の概要

１．柔道整復の専門基礎・専門科目の習得に最小限度必要な人体に関わる用語、解剖学用語、柔整・整形外科用語、医学臨床用語の基礎知識について説明する。

２．人体模型、プリント、OHP、スライド等を必要に応じ配布または使用する。

授業計画

第１週　ガイダンス
第２週　計測の基礎　１）長さの計測　２）太さの計測
第３週　３）角度計　４）筋力測定
第４週　４）脈の触診　５）血圧測定
第５週　頚部　１）角度測定　２）脈の触診と部位
第６週　上肢　１）上肢長測定　２）上腕と前腕の周径
第７週　３）脈の触診
第８週　４）筋力測定
第９週　背部と腰部　１）角度測定
第１０週　２）筋力測定
第１１週　下肢　１）下肢長測定　２）大腿と下腿の周径
第１２週　３）角度測定
第１３週　４）脈の触診と部位
第１４週　５）筋力測定
第１５週　試験

テキスト

教材・参考文献

１．解剖学：岸　清・石塚　寛 編　医歯薬出版　　２．運動学：斉藤　宏 著　医歯薬出版

３．柔道整復学（理論編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

配布したプリント、参考文献１・２を毎時間持参する。

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
解剖学	3	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 甲 斐　優 太 郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

１．柔道整復の専門基礎・専門科目の習得に必要な基本的な用語を理解する。

２．生体の観察・計測等に必要な基本的知識について理解する。

授業の概要

１．柔道整復の専門基礎・専門科目の習得に最小限度必要な人体に関わる用語、解剖学用語、柔整・整形外科用語、医学臨床用語の基礎知識について説明する。

２．人体模型、プリント、OHP、スライド等を必要に応じ配布または使用する。

授業計画

第１週　　頚部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域　４）頚部の理学的検査

第２週　　肩部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第３週　　肩部の理学的検査

第４週　　肘部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第５週　　肘部の理学的検査

第６週　　手部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第７週　　手部の理学的検査

第８週　　腰部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第９週　　腰部の理学的検査

第１０週　股関節部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域　４）股関節部の理学検査

第１１週　膝部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第１２週　膝部の理学的検査

第１３週　足部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第１４週　足部の理学的検査

第１５週　試験

テキスト

教材・参考文献

１．解剖学：岸　清・石塚　寛 編　医歯薬出版　　２．運動学：斉藤　宏 著　医歯薬出版

３．柔道整復学（理論編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

配布したプリント、参考文献１・２を毎時間持参する。

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
生理学	1	(前期)・後期	(講義)・実習	清永　真理

授業の目標

生体を構成する細胞・組織・臓器および個体の生命現象のしくみについて分かりやすく解説する。

授業の概要

生理学の基礎を学び、また複数の臓器が連携して機能を果たしている器官系（循環器系、血液・造血器系、呼吸器系）の構成と機能を学び、生命がどのような仕組みで保たれているかについて理解する。消化器系、泌尿器系の構成と機能を学び、生命がどのような仕組みで保たれているかについて理解する。また栄養について学び、食物が身体の中でどのようにエネルギーに変わるのか理解する。

授業計画

1. 生理学の基礎　A　人体を構成する要素　B ホメオスタシス　C 細胞の機能的構造　D 物質の移動
2. 体液の生理学　A　体液の区分と水のバランス　B 体液のイオン組成　C 体液の恒常性を維持
3. 血液の生理学　A　血液の役割　B　組成 C　免疫機能　D　血液型　E　血液の凝固
4. 循環の生理学　A　心臓の機能　B 血管系 C リンパ管系 D 循環の調節 E　局所循環 F　脳脊髄液循環
5. 呼吸の生理学　A　呼吸器の機能的構造　B 換気　C ガス交換　D 血液中の酸素の運搬
   E　血液による二酸化炭素の運搬 F　呼吸を調節するしくみ　G　呼吸の異常
6. 消化と吸収　A　消化器系の働きとその調節 B 消化液の分泌機序 D 消化　E 吸収
   F　消化管ホルモン　G　肝臓と胆道系
7. 栄養と代謝　A　代謝 B　中間代謝　C　エネルギー代謝
8. 体温とその調節　A　体温　B　体温の生理的変動　C　体内における熱の産生 D　熱放散
   E　体温の調節　F うつ熱と発熱　G　気候訓化
9. 尿の生成と排泄　A　腎の機能的構造 B ろ過　C 尿細管における再吸収 D 尿細管における分泌
10. 内分泌系の機能　A　内分泌腺 B ホルモンの一般的性質 C ホルモンの種類と作用 D 視床下部下垂体
11. 内分泌系の機能　F　甲状腺ホルモン G　副腎皮質ホルモン H　副腎髄質ホルモン
12. 内分泌系の機能　I 膵臓ホルモン　J 精巣ホルモン　K　卵巣ホルモン
13. 生殖　A 染色体とその異常性分化　C 男子生殖器系の構成と精子形成　E　勃起と射精
14. 生殖　F 女子生殖器系の構成 G 卵巣の周期　H 月経周期　I　妊娠と分娩 J 乳汁分泌
15. 骨の生理学　A 構造 B 形成と成長 C 骨の再吸収と再形成 D カルシウム代謝のホルモンによる調節

テキスト

『生理学』　根来　英雄　　貴邑　富久子　著　（社団法人　全国柔道整復学校協会　監修）

教材・参考文献

成績評価の方法

定期末試験（中間・期末）の結果にて評価を行う

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
生理学	1	前期・(後期)	(講義)・実習	清永　真理

授業の目標

生体を構成する細胞・組織・臓器および個体の生命現象のしくみについて分かりやすく解説する。

授業の概要

生体を構成する細胞・組織・臓器および個体の生命現象のしくみについて分かりやすく解説する。
神経系では、神経系の成り立ちや生体の行動の具体的な事象、睡眠、情動、記憶、学習などについて理解する。

授業計画

1.神経の基本的構造　A　神経細胞の形態　B　静止膜電位と活動電位　C 興奮の伝導　D 興奮の伝達
2. 神経系の機能　A　神経系の成り立ち
3. 神経系の機能　B　内臓機能の調節　C　内蔵機能の視床下部による調節
4. 神経系の機能　D　姿勢と運動の調節　ｐ２０３～ｐ２１０
5. 神経系の機能　D　姿勢と運動の調節　ｐ２１０～ｐ２２１
6. 神経系の機能　E　高次機能　ｐ２２１～ｐ２２４
7. 神経系の機能　E　高次機能　ｐ２２４～ｐ２２９
8. 筋肉の機能　A　骨格筋の構造　B　筋収縮の仕組み
9. 筋肉の機能　C　筋細胞膜を興奮させる仕組み　D　骨格筋の収縮
10. 筋肉の機能　F　筋収縮のエネルギー　G　筋の発生　H　筋電図　I　平滑筋　J　心筋
11. 感覚の生理学　A　感覚の種類　B　感覚の一般的性質
12. 感覚の生理学　C　体性感覚　D　内臓感覚
13. 感覚の生理学　E　嗅覚と味覚
14. 感覚の生理学　F　聴覚　G　前庭感覚
15. 感覚の生理学　H　視覚

テキスト

『生理学』　根来　英雄　　貴邑　富久子　著　（社団法人　全国柔道整復学校協会　監修）

教材・参考文献

成績評価の方法

定期末試験（中間・期末）の結果にて評価を行う
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
運 動 学	2	(前期)・後期	(講義)・実習	稲垣　敦

授業の目標

運動学の基礎ならびに運動障害をもつ患者を治療するために必要な人間の運動に関わる身体の機能と構造について理解する。

授業の概要

テキストを用いて運動学の基礎､ならびに臨床の場で運動障害をもつ患者を診て治療するために必要な人間の運動に関わる基本的な身体の機能と構造について説明する。

授業計画

第１週　身体運動と力学　１）身体運動に関する力、人体における単一機能構造２）運動の法則
第２週　仕事と力学的エネルギー運動器の構造と機能　１）骨・関節２）骨格筋
第３週　神経の構造と機能　１）神経細胞、末梢神経２）中枢神経　運動感覚
第４週　反射と脊髄運動　１）反射　２）随意運動
第５週　四肢と体幹の運動　１）上肢　①上肢帯②肩関節③肘関節・前腕④手関節⑤手部
第６週　四肢と体幹の運動　２）下肢　①股関節②膝関節③足関節④足部
第７週　３）体幹　①脊柱・頚椎②胸椎・腰椎③顔面・頭部
第８週　姿勢（分類、重心、立位姿勢、他）
第９週　歩行　１）歩行周期、運動学的分析
第 10 週　２）運動力学的分析、歩行時の筋活動
第 11 週　３）エネルギー代謝、異常歩行
第 12 週　運動発達　１）神経組織の成熟
第 13 週　２）乳幼児期の運動発達
第 14 週　運動学習
第 15 週　まとめ

テキスト

運動学：斉藤　宏 著　社団法人 全国柔道整復学校協会 監修　医歯薬出版社

教材・参考文献

鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス：北村清一郎 編集　南江堂
おもしろ解剖学読本：加藤征治、三浦真弘 共著　金芳堂

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位１５時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
成長と発達 （高齢者の生理学的特徴・変化）	2	前期・(後期)	(講義)・実習	稲垣　敦

授業の目標

人体の生理学的機能を理解するとともに、人体機能の成長と発達を学ぶ。特に高齢者の生理学的特徴や変化を捉え、臨床に役立つ力を身につける。

授業の概要

テキストならびに参考文献を用いて、人体の発生と成長について理解を深める。
必要に応じてプリントや映像を使用する。進度により小テストを行い、理解度を把握する。
また、高齢者の生理学的特徴を学び、高齢社会の現代で通用する臨床力を身につける。

授業計画

第１週　ガイダンス・人体の発生について骨の基本的構造と成長筋の基本的構造と成長
第２週　筋収縮と筋力　幼児期の生理学的特徴
第３週　成人期の生理学的特徴　高齢期の生理学的特徴
第４週　発育・発達と老化
第５週　高齢者と健康　高齢者と運動
第６週　高齢者に起こりやすい疾患　骨粗鬆症についての基礎知識
第７週　高齢者の神経機能と認知症　　高齢者に対する臨床
第８週　まとめ

テキスト

生理学：全国柔道整復学校協会 監修　根来　英雄　・　貴邑　冨久子　　編　南江堂

教材・参考文献

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版
イラスト　運動生理学

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位１５時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
アスリートの生理 （競技者の生理学的特徴・変化）	2	前期・(後期)	(講義)・実習	稲垣　敦

授業の目標

人体の生理学的機能を理解するとともに、アスリートの生理学的特徴について学ぶ。日々トレーニングを行う競技者の呼吸機能・循環機能などの特異性を認識し、臨床力を身につける。

授業の概要

テキストならびに参考文献を用いて、アスリートの機能的特性について理解する。
必要に応じてプリントや映像を使用し、アスリートの具体的な生理学的数値に触れる。

授業計画

第１週　ガイダンス・アスリートの生理学的特徴について　骨格筋の収縮と神経支配
第２週　筋力トレーニングと筋線維の発達　アスリートの呼吸機能、循環機能、食事と栄養
第３週　ジュニアアスリートの生理学的特徴　成人アスリートの生理学的特徴
第４週　女性アスリートの生理学的特徴　スポーツと月経周期　スポーツと妊娠
第５週　高齢アスリートの生理学的特徴
第６週　生理学的特徴を踏まえたコンディショニング
第７週　生理学的特徴を踏まえたトレーニング
第８週　まとめ

テキスト

生理学：全国柔道整復学校協会 監修　根来　英雄　・　貴邑　冨久子　編　南江堂

教材・参考文献

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版
女性スポーツの医学　　目崎　登　著

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 人体の構造と機能 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
運動学	3	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 宮迫　宏治

担当教員の実務経験

柔道整復師として豊富な治療経験を有し、様々な症状の患者と接する。専門学校教員として、人体の動きの基礎となる学問などを担当している。

授業の目標

運動器（骨・筋肉・関節）に関わる解剖学的知識や生理学的機能を理解し、臨床に役立つ力を身につける

授業の概要

テキストならびに参考文献を用いて運動器について理解を含める。

必要に応じてプリントや映像を使用することにより、理解を深め、国家試験に対する実践力を養う。

また、柔道整復師として必要な触診力（骨・筋肉・関節）を身につける。

授業計画

第１週　ガイダンス・運動器についての基礎知識

第２週　骨の構造と機能（構成・発生と成長・ビタミン・ホルモン）

第３週　頭部・体幹部の骨

第４週　上肢の骨

第５週　下肢の骨

第６週　関節の構造と機能（構造・分類）

第７週　頭部（顎関節）と体幹部の関節とその運動

第８週　上肢の関節とその運動

第９週　下肢の関節とその運動

第 10 週　骨格筋の構造と機能（構造・筋線維の種類・筋収縮の様態・筋の働き）

第 11 週　頭部・体幹部の筋

第 12 週　上肢の筋

第 13 週　下肢の筋

第 14 週　筋と神経のつながり

第 15 週　まとめ

テキスト

運動学：全国柔道整復学校協会 監修　斎藤　宏 編　医歯薬出版

教材・参考文献

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
病理学	1	(前期)・後期	(講義)・実習	髙井　教行

授業の目標

疾病の形態、機能・代謝の変化を学び、臨床に必要な疾病の鑑別、施術、処置法の基本を理解する。

授業の概要

テキスト・視聴覚教材を用いて疾病の病理、鑑別、施術、処置法について説明する。

授業計画

第１週　病理学とは、病理学の意義
第２週　疾病の一般
第３週　病因　１）内因（素因と体質、遺伝、内分泌障害、免疫）
第４週　　２）外因（栄養障害）
第５週　　３）外因（物理的外因）
第６週　　４）外因（化学物質）
第７週　　５）外因（病的微生物の病因作用）
第８週　代謝異常　１）萎縮・変性
第９週　　２）壊死・死
第 10 週　循環障害　１）充血、うっ血、虚血、出血
第 11 週　　２）血栓症、塞栓症、梗塞
第 12 週　　３）リンパ液の循環障
第 13 週　進行性病変　１）肥大、過形成、再生、化生
第 14 週　　２）創傷治癒、組織内異物の処理
第 15 週　炎症の一般・分類

テキスト

病理学概論：全国柔道整復学校協会 監修　関根一郎 著　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
病理学	2	前期・(後期)	(講義・実習)	高井　教行

授業の目標

疾病の形態、機能・代謝の変化を学び、臨床に必要な疾病の鑑別、施術、処置法の基本を理解する。

授業の概要

テキスト・視聴覚教材を用いて疾病の病理、鑑別、施術、処置法について説明する。

授業計画

第１週	免疫異常	１）免疫の仕組み
第２週		２）免疫不全、自己免疫異常
第３週	アレルギー	
第４週	腫瘍の一般	１）定義、細胞、組織構造
第５週		２）発達、生体への影響
第６週		３）発生原因、診断と治療
第７週	腫瘍の分類	１）良性腫瘍
第８週		２）悪性腫瘍
第９週		３）主要な癌
第 10 週	先天性疾患	１）先天性異常
第 11 週		２）奇形の原因
第 12 週		３）奇形形成の時期
第 13 週	運動器の病理	１）骨の病理
第 14 週		２）関節の病理
第 15 週		３）骨格筋の病理

テキスト

病理学概論：全国柔道整復学校協会 監修　関根一郎 著　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
病理学	2	前期・(後期)	(講義・実習)	高井　教行

授業の目標

疾病の形態、機能・代謝の変化を学び、臨床に必要な疾病の鑑別、施術、処置法の基本を理解する。

授業の概要

テキスト・視聴覚教材を用いて疾病の病理、鑑別、施術、処置法について説明する。

授業計画

第１週　　疾病まとめ
第２週　　退行性病変まとめ
第３週　　代謝障害まとめ
第４週　　循環障害まとめ
第５週　　進行性病変まとめ
第６週　　創傷治癒まとめ
第７週　　炎症まとめ①
第８週　　炎症まとめ②
第９週　　免疫まとめ
第 10 週　　アレルギーまとめ
第 11 週　　腫瘍まとめ①
第 12 週　　腫瘍まとめ②
第 13 週　　先天性異常まとめ
第 14 週　　病因まとめ
第 15 週　　運動器の病理まとめ

テキスト

病理学概論：全国柔道整復学校協会 監修　関根一郎 著　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
一般臨床医学	2	(前期)・後期	(講義)・実習	本庄　浩

授業の目標

診察・診断の進め方や内科的疾患などについての基本的な知識を理解・習得する。

授業の概要

テキストを用いて診察・診断および内科的疾患、臨床現場における基本的な知識について説明する。
また、必要に応じ視聴覚教材を使用する。

授業計画

第１週　　診察の意義・進め方　問診　視診１）体格・体型、栄養状態、精神状態
第２週　　２）異常運動、歩行３）皮膚の状態４）頭部・頚部５）胸部・腹部・背部・腰部６）四肢
第３週　　打診　１）聴診音の種類　２）胸部・腹部の打診
第４週　聴診１肺　２）心臓・腹部　触診１）皮膚・皮下組織２）骨・関節３）胸部・腹部・リンパ節
第５週　生命徴候　１）体温　２）血圧　３）脈拍・呼吸
第６週　　知覚検査　１）表在知覚、深部知覚の検査　２）複合知覚、その他の知覚検査
第７週　　反射検査　１）種類、表在反射、深部反射　２）病的反射、自律神経反射
第８週　　臨床症状　１）発熱、出血傾向　２）リンパ節腫脹　３）意識障害、チアノーゼ　４）関節痛
第９週　　５）浮腫　６）肥満とやせ
第10 週　　検査法　　１）生命徴候の測定　２）生理機能、検体、運動機能検査
第11 週　呼吸器疾患　１）総論、肺感染症
第12 週　　２）呼吸器機能障害、肺循環障害
第13 週　　３）肺気腫、気管支・肺・胸郭系の変形および形成障害
第14 週　循環器疾患１）総論、心臓の疾患２）不整脈各論
　　３）血圧異常、動脈・静脈疾患、血管痙攣性疾患
第15 週　消化器疾患　１）総論、食道・胃疾患　２）腸疾患

テキスト

一般臨床医学：全国柔道整復学校協会 監修　椎名晋一 著　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
一般臨床医学	2	前期・(後期)	(講義)・実習	本庄　浩

授業の目標

診察・診断の進め方や内科的疾患などについての基本的な知識を理解・習得する。

授業の概要

テキストを用いて診察・診断および内科的疾患、臨床現場における基本的な知識について説明する。
また、必要に応じ視聴覚教材を使用する。

授業計画

第１週　肝・胆・膵疾患　１）総論、肝疾患２）胆道・膵・腹膜疾患
第２週　代謝・栄養疾患　１）総論、糖・脂質・尿酸の代謝異常　２）その他の代謝異常
第３週　　内分泌疾患甲状腺・副甲状腺疾患副腎疾患
第４週　　血液・造血疾患　１）総論、貧血　２）その他の疾患
第５週　　腎・尿路疾患
第６週　　神経疾患　１）総論　２）脳血管障害、脳・脊髄腫瘍
第７週　　３）感染性・痴呆性・基底核変性疾患
第８週　　４）末梢神経・脱髄疾患５）筋・頚椎疾患
第９週　感染症・性病　１）総論、細菌性、スピロヘータ・真菌・マイコプラズマ　２）ウィルス感染症
第 10 週　リウマチ性疾患・アレルギー性疾患・免疫不全症
第 11 週　　１）総論、リウマチ性疾患
第 12 週　　２）膠原病、遺伝性結合組織炎
第 13 週　環境要因による疾患
第 14 週　各検査の基準値
第 15 週　まとめ

テキスト

一般臨床医学：全国柔道整復学校協会 監修　椎名晋一 著　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
外科学	2	(前期)・後期	(講義)・実習	廣重　彰二

授業の目標

外科学の基礎および代表的疾患について理解する。

授業の概要

外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常、臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科的疾患について説明する。

授業計画

第１週	総論	外科学とは、	
第２週		損傷および熱傷	
第３週		外傷、頭部・ムチ打ち症　胸部・腹部外傷	
第４週		感染症、急性および慢性炎症	
第５週		腫瘍学総論　①良性腫瘍	
第６週		②悪性腫瘍	
第７週		ショックの病理・輸血および輸液、高カロリー輸液	
第８週		滅菌と消毒、手術法	
第９週		麻酔法　①全身麻酔	
第 10 週		②局所麻酔	
第 11 週		移植と免疫	
第 12 週		蘇生術、出血と止血	
第 13 週	各論	脳神経外科疾患	解剖・生理
第 14 週			診断法、脳腫瘍
第 15 週			血管障害、頭部外傷

テキスト

外科学概論：炭山嘉伸 編　南江堂

教材・参考文献

標準外科学：武藤輝一・田邊達三 監修、小柳　仁・松野正紀・北島正樹 編集　医学書院

成績評価の方法

定期試験の結果で評価する。

評価は筆記試験により行い、60／100 点以上を及第（合格）とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
外科学	2	(前期)・後期	(講義)・実習	廣重　彰二

授業の目標

外科学の基礎および代表的疾患について理解する。

授業の概要

外科学の基礎となる総論的な事項とともに、日常、臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科的疾患について説明する。

授業計画

第１週	各論	胸壁・肺・縦隔疾患	解剖・生理
第２週			診断法・手術
第３週			肺疾患、気胸、血胸、腫傷、外傷
第４週		乳腺疾患	解剖・生理
第５週			診断法・疾患
第６週		心臓疾患	解剖・生理、検査・手術
第７週			先天性心疾患、後天性心疾患
第８週			心臓移植、虚血性心疾患
第９週		脈管疾患	動脈疾患静脈疾患
第 10 週		腹部外科疾患	解剖・生理　主要徴候と病態生理
第 11 週			診断法
第 12 週			代表的腹部外科疾患①
第 13 週			代表的腹部外科疾患①
第 14 週			救急医学①
第 15 週			救急医学②

テキスト

外科学概論：炭山嘉伸 編　南江堂

教材・参考文献

標準外科学：武藤輝一・田邊達三 監修、小柳　仁・松野正紀・北島正樹 編集　医学書院

成績評価の方法

定期試験の結果で評価する。

定期試験は筆記試験を行い 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
整形外科学	2	(前期)・後期	(講義)・実習	本庄　浩

授業の目標

臨床の現場で必要な骨・関節・筋・神経などの整形外科領域の疾患についての診断方法、症状、検査法について理解する。

授業の概要

１．テキストを用いて臨床の現場で骨・関節・筋・神経などの整形外科領域の疾患についての診断方法、症状、検査法について説明する。

２．必要に応じX線、関節造影、CTなどの資料を用いて画像読影の実際について説明する。

授業計画

第１週　ガイダンス、整形外科とは
　　運動器の基礎　１）骨、関節
第２週　　２）筋、神経
第３週　診断学　１）診察法（姿勢、四肢のバランス、計測、他）
第４週　　２）画像診断（X線、関節造影、CT、他）、その他の検査法
第５週　治療法　１）保存療法
第６週　　２）観血的療法
第７週　全身性の骨・軟部疾患　１）先天性骨系統疾患、進行性骨化性筋炎　他
第８週　　２）Ehlers-Danlos症候群、Paget病　他
第９週　骨・関節損傷総論　１）骨折総論
第10週　　２）関節損傷
第11週　スポーツ外傷・障害
第12週　感染性疾患　１）急性化膿性骨髄炎、慢性骨髄炎、
第13週　　２）Brodie膿瘍、化膿性関節炎、化膿性筋炎　他
第14週　非感染性軟部・関節疾患　１）軟部組織疾患
第15週　　２）関節疾患

テキスト

整形外科学：安部光俊 著　南江堂

教材・参考文献

成績評価の方法

中間試験、定期試験の結果で評価する（中間試験50%、定期試験50%）。

なお、評価は筆記試験により行い100点満点で60点以上のものを及第とする。

秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
整形外科学	2	前期・(後期)	(講義)・実習	本庄　浩

授業の目標

臨床の現場で必要な骨・関節・筋・神経などの整形外科領域の疾患についての診断方法、症状、検査法について理解する。

授業の概要

１．テキストを用いて臨床の現場で骨・関節・筋・神経などの整形外科領域の疾患についての診断方法、症状、検査法について説明する。

２．必要に応じ X 線、関節造影、CT などの資料を用いて画像読影の実際について説明する。

授業計画

第１週　骨端症
第２週　神経・筋の系統疾患
第３週　骨・軟部腫瘍　１）骨腫瘍、骨肉種、軟骨肉腫　他
第４週　　２）線維性骨異形成症、骨組織球症　他
第５週　体幹の疾患　１）頸部胸郭
第６週　　２）胸椎・胸郭
第７週　　３）腰椎・骨盤
第８週　肩甲帯・上肢の疾患　１）肩甲帯
第９週　　２）肩関節・上腕部
第 10 週　　３）肘関節・前腕部・
第 11 週　　４）手関節・手部
第 12 週　骨盤・下肢の疾患　１）骨盤部
第 13 週　　２）股関節・大腿部
第 14 週　　３）膝関節・下腿部
第 15 週　　４）足関節・足部

テキスト

整形外科学：安部光俊 著　南江堂

教材・参考文献

成績評価の方法

中間試験、定期試験の結果で評価する（中間試験 50%、定期試験 50%)。

なお、評価は筆記試験により行い 100 点満点で 60 点以上のものを及第とする。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
リハビリテーション医学	2	(前期)・後期	(講義)・実習	本庄　浩

授業の目標

外傷や加齢などの影響による症状や障害の程度・予後など臨床に必要な知識・技術を理解する。

授業の概要

テキストを用いて外傷や加齢などの影響による症状や障害の程度・予後などについて説明する。

授業計画

第１週　ガイダンス、概念と歴史
第２週　リハビリテーション医学の対象（障害の３つのレベル）
第３週　運動の基本（関節の運動、筋とその作用、運動のコントロール）
第４週　四肢・脊柱の機能解剖
第５週　障害学（関節拘縮・変形、筋萎縮、神経麻痺）
第６週　治療学（関節拘縮、筋力増強訓練、バイオフィードバック、痛みの治療）
第７週　評価と診断　１）患者のとらえ方
第８週　２）身体計測、関節可動域測定法
第９週　３）徒手筋力テスト
第 10 週　４）評価法（中枢性運動障害、痙縮、小児運動発達）
第 11 週　５）協調性テスト
第 12 週　６）失認と失行の評価法
第 13 週　７）心理評価
第 14 週　８）日常生活動作の評価、電気生理学的診断法
第 15 週　９）画像診断（CT、MRI）

テキスト

リハビリテーション医学：全国柔道整復学校協会 監修　三上真弘 偏　南江堂

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 疾病と障害 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
リハビリテーション医学	2	前期・(後期)	(講義)・実習	本庄　浩

授業の目標

外傷や加齢などの影響による症状や障害の程度・予後など臨床に必要な知識・技術を理解する。

授業の概要

テキストを用いて外傷や加齢などの影響による症状や障害の程度・予後などについて説明する。

授業計画

第１週　　治療法　１）理学療法　①運動療法、物理療法
第２週　　②牽引、マッサージ、マニュピレーション
第３週　　２）作業療法
第４週　　３）補装具　①装具、義肢
第５週　　②移動補助具、自助具と介護機器
第６週　　４）言語治療
第７週　　リハビリテーション医学と関連職種
第８週　　リハビリテーションの実際
　　１）脳卒中
第９週　　２）脊髄損傷
第 10 週　　３）小児疾患
第 11 週　　４）切断、末梢神経損傷
第 12 週　　５）関節リウマチ
第 13 週　　６）整形外科疾患
第 14 週　　７）心疾患・呼吸器疾患
第 15 週　　８）老人のリハビリテーション、リハビリテーションと福祉

テキスト

リハビリテーション医学：全国柔道整復学校協会 監修　三上真弘 偏　南江堂

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 柔道整復術の適応 ）

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復の適応	2	前期・(後期)	(講義)・実習	森　照明

授業の目標

柔道整復師としての臨床的な判断力を身につけ、臨床所見から判断して施術に適する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を学習する。

授業の概要

テキストならびに参考文献を用いて柔道整復の適応範囲について理解を含める。
必要に応じてプリントや映像を使用することにより、理解を深め、国家試験に対する実践力を養う。
また、柔道整復師として必要な判断力や限界を見極める力を身につける。

授業計画

第１週　施術の適応判断の必要性
第２週　適応の判断
第３週　非適応の判断
第４週　内臓疾患の投影を疑う疼痛
第５週　腰痛を伴う疾患
第６週　血流障害を伴う損傷
第７週　末梢神経損傷を伴う損傷
第８週　脱臼骨折
第９週　外出血を伴う損傷
第 10 週　病的骨折、病的脱臼
第 11 週　意識障害を伴う損傷
第 12 週　脊髄症状のある損傷
第 13 週　呼吸運動障害を伴う損傷
第 14 週　高エネルギー外傷
第 15 週　まとめ

テキスト

施術の適応と医用画像の理解：全国柔道整復学校協会 監修　細野 昇　川口 央修 編　南江堂

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

専門基礎分野（ 社会保障制度 ）

１単位１５時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
社会保障制度	3	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 甲斐　優太郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

社会保障法は、現代の国民の日常生活において欠くことのできない法分野であるとともに、社会保障制度の経済的な役割の大きさのゆえに企業その他の経済主体にとっても重要な意味を持つ法分野である。この講義は、医療保険法(健康保険法、国民健康保険法等)、年金保険法(国民年金法および厚生年金保険法)、および社会福祉サービス法(主として介護保険法)につき、その基本的構造と考え方を習得するとともに、前記各領域で生じる法的問題を解決する能力を養う。あわせて、社会保障制度の現代的課題と政策の動向についても理解を深める。

授業の概要

１．　教材(後掲のもの)、および適宜与える課題を用いて、学生との質疑応答と議論によって行う。

授業計画

第１週　Ⅰ Introdction　　・教材、参考書、六法などについて　　・社会保障制度の概要
第２週　Ⅱ介護保険　介護保険と契約（1）　契約の締結、成年後見
第３週　　介護保険と契約(2)　　契約と措置との異同
第４週　　老人福祉・介護保険の法的問題(1)　　・契約内容の変更等
第５週　　老人福祉・介護保険の法的問題(2)　　・介護事故
第６週　Ⅲ　社会保険の適用　　1. 健康保険・厚生年金の被保険者　・「労働者」労災保険との関係
第７週　　2. 外国人と医療・年金
第８週　Ⅳ　公的年金　　1.　公的年金の給付(1)　　・年金給付の受給権と損害賠償(その 1)
第９週　　2.　公的年金の給付(2)　　・年金給付の受給権と損害賠償(その 2)
第 10 週　　3. 離婚時の年金分割
第 11 週　　4.　女性と年金　　・重婚的内縁関係と遺族年金
第 12 週　Ⅴ　公的医療保険　1.　公的医療保険の給付(1)　　・診療報酬と減点査定
第 13 週　　2.　公的医療保険の給付(2)　　・公的医療保険の診療の範囲(その 1)
第 14 週　　3.　公的医療保険の給付(3)　　・公的医療保険の診療の範囲(その 2)
第 15 週　　4.　公的医療保険の財政　　・国民健康保険料(税)と租税法律主義

テキスト

『社会保障法』

教材・参考文献

『社会保障法総論〔第 2 版〕』

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

専門基礎分野（ 保険医療福祉と柔道整復の理念 ）

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
関 係 法 規	3	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 甲 斐　優 太 郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

柔道整復師の業務に関連する医療や福祉の法律を理解する。また、社会における柔道整復師のあり方について理解する。

授業の概要

テキストを用いて医療や福祉の法律の基本、柔道整復師の業務に関係する法律について説明する。
また、柔道整復師の社会的な立場を理解し、学習した内容を業務に反映する態度を養う。

授業計画

第１週　柔道整復師法の目的、定義
第２週　免許（柔道整復師免許、免許を受けるための要件、免許の申請）
第３週　柔道整復師試験（試験の実施、合格証書と合格証明書）
第４週　業務（業務の停止、業務範囲、守秘義務、都道府県知事の指示）
第５週　施術所（届出、構造設備、施術所に対する監督）
第６週　雑則（広告、経過措置の制定）
第７週　罰則（罪刑法定主義、柔道整復師法に定められる罰則、両罰規）
第８週　指定登録機関
第９週　指定試験機関
第 10 週　附則（免許の特例、受験資格の特例）
第 11 週　医療従事者の身分関係法（医師法、歯科医師法、他）
第 12 週　医療法
第 13 週　薬事法
第 14 週　衛生関係法規、社会福祉関係法規、社会保険関係法規
第 15 週　まとめ

テキスト

関係法規：医事法制研究会 監修　全国柔道整復学校協会・医歯薬出版 編　医歯薬出版

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 保険医療福祉と柔道整復の理念 ）

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
衛生学・公衆衛生学	1	(前期)・後期	(講義)・実習	工藤　欣邦

授業の目標

国民の健康を守るべき医療人として，国民の健康状態と保健，衛生，福祉の体制を正しく理解し，国民の健康を守るための保健医療サービスと公衆衛生事業のしくみと方法について学習する。

授業の概要

衛生学・公衆衛生学の歴史や環境保健、産業保健、食品保健、学校保健、精神保健などの各領域における健康現象を取り上げ、その実態から成因・背景・予防対策、残された課題等に関して学びます。

授業計画

第１週　医の倫理と医療従事者の義務
第２週　保健医療論（地域保健・地域医療）
　　１）わが国の衛生行政機関の概要、機関の役割、行政の財政
第３週　　２）医療施設・医療保険
第４週　　３）公費（負担）医療、国民医療費
第５週　地域保険と国際保健　　１）地域保険とは
第６週　　２）地域保健活動の特徴
第７週　　３）保健に関する国際協力と世界保健機関
第８週　保健医療論（社会保障制度　障害者福祉）
第９週　母子保健　１）ライフサイクルと母子保健
第 10 週　　２）母子保健の指標
第 11 週　学校保健　１）学校保健の領域と構成、学校保健組織活動
第 12 週　　２）学校保健・環境管理
第 13 週　　３）保健教育、保健状況の統計
第 14 週　精神保健　１）精神の病気①
第 15 週　　２）精神の病気②、精神保健活動とその原則

テキスト

衛生学・公衆衛生学：全国柔道整復学校協会 監修　鈴木庄亮,久 道茂,小川正行 編　南江堂

教材・参考文献

厚生の指標 国民衛生の動向：財団法人 厚生統計協会

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 保険医療福祉と柔道整復の理念 ）

２単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
衛生学・公衆衛生学	1	前期・(後期)	(講義)・実習	工藤　欣邦

授業の目標

国民の健康を守るべき医療人として，国民の健康状態と保健，衛生，福祉の体制を正しく理解し，国民の健康を守るための保健医療サービスと公衆衛生事業のしくみと方法について学習する。

授業の概要

衛生学・公衆衛生学の歴史や環境保健、産業保健、食品保健、学校保健、精神保健などの各領域における健康現象を取り上げ、その実態から成因・背景・予防対策、残された課題等に関して学びます。

授業計画

第１週　　環境保健　　１）環境とは２）環境問題３）物理的環境要因４）化学・生物的環境問題
第２週　　５）公害６）空気の衛生と大気汚染７）環境の測定と評価、環境基準とその設定
第３週　生活環境食品衛生活動１）水の衛生と水質汚濁２）衣服・住居３）食品
第４週　　４）食品衛生活動、栄養改善活動
第５週　感染症の予防　　１）感染症とは２）感染症の予防
第６週　消毒法　　１）消毒とは、消毒の種類と方法２）消毒法の応用
第７週　産業保健　１）産業保健の歴史、特徴、動向・対策２）物理的環境因子による健康障害
第８週　　３）化学的環境因子による健康障害　４）職場における健康診断と健康増進
第９週　　５）労働者の生活と余暇、リハビリテーションと職場復帰
第 10 週　成人・老人保健　１）成人・老人の健康状態、有訴者率、受療率
　　２）成人保健（成人病から生活習慣病）３）老人の生活と老人保健・福祉対策
第 11 週　高齢者について１）加齢と老化　　２）生活主観病の特徴と対策
第 12 週　　３）老人保健福祉対策　４）介護保険 後期高齢者医療
第 13 週　疫学　　１）疫学とは、病因、疫学モデル、分類
第 13 週　　２）調査対象または調査、疾病量の把握、調査方法の選択
第 14 週　　３）調査の実施と結果の分析、主な統計手法
第 15 週　まとめ

テキスト

衛生学・公衆衛生学：全国柔道整復学校協会 監修　鈴木庄亮,久 道茂,小川正行 編　南江堂

教材・参考文献

厚生の指標 国民衛生の動向：財団法人 厚生統計協会

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 保険医療福祉と柔道整復の理念 ）

１単位１５時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
医療倫理と保険請求	3	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 甲斐　優太郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

１．各関節・部位の軟部組織損傷との鑑別診断上重要な疾患について理解する。

２．柔整業務内での外傷・障害の取り扱い、治療方法や指導内容について理解する。

授業の概要

１．資料を用いて外傷と障害及び鑑別診断上重要な疾患について説明する。

２．講義は「整形外科学」をベースに考察し、外傷と障害の基本および柔道整復業務範囲内での処置法や指導内容について説明する。

３．視覚に訴えたほうが良いと思われる内容では人体模型やスライド・OHP などの機材を使用する。

授業計画

第１週　導入　医療倫理の必要性

第２週　生命倫理・医療倫理　生命倫理の方法と医療倫理　バイオエシックス

第３週　生命倫理の四原則　ジュネーブ宣言　医の倫理綱領

第４週　患者の権利と生命倫理①　リスボン宣言　患者の権利章典

第５週　WHO 憲章　世界人権宣言　アルマ・アタ宣言

第６週　マドリード宣言　オタワ憲章

第７週　患者の権利と生命倫理②　患者中心の医療とチーム医療
医療者と患者関係におけるコミュニケーション

第８週　薬害と生命倫理

第９週　生殖医学と生命倫理　生殖技術　クローン技術　出生前診断　ES･iPS 細胞　人工妊娠中絶

第 10 週　脳死・臓器移植と生命倫理　死　死亡判定基　脳死　脳死判定基準　移植医療

第 11 週　終末期医療と生命倫理　終末期医療とは　延命と QOL　安楽死　尊厳死　緩和ケア　輸血拒否

第 12 週　医療保険制度の目的と歴史

第 13 週　健康保険と療養費　第 14 週　現金給付と現物給付

第 15 週　受領委任払い方式と償還払い方式

テキスト　医療倫理と保険請求　（南江堂）

教材・参考文献　１．医療概論（医歯薬出版）

成績評価の方法　定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

１．予習・復習を行うこと。

２．講義内容について不明な点は放置せず積極的に質問すること。

３．講義中の私語は他の学生の集中や理解を妨げとなるので慎む。

専門基礎分野（ 保険医療福祉と柔道整復の理念 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔　道	１年	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 中尾　幸雄 吉良　克哉

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

柔道整復師のルーツである柔道の精神、歴史を学ぶ。柔道の基本動作を身につける。

授業の概要

１．柔道の精神、歴史を理解させる。

２．柔道の技術、審判規定を理解させる。

３．礼法や受身などの基本動作を習得させる。

授業計画

第１週　　柔道の精神、歴史

第２週　　礼法「立礼」「座礼」　　受身「後ろ受身」

第３週　　礼法「立礼」「座礼」　　受身「後ろ受身」「横受身」

第４週　　礼法「立礼」「座礼」　　受身「後ろ受身」「横受身」

第５週　　礼法「立礼」「座礼」　　受身「後ろ受身」「横受身」「前廻り受身」

第６週　　既習技の復習

第７週　　投技　立技　１）「大腰」

第８週　　２）「大外刈」

第９週　　３）「大内刈」

第 10 週　寝技　抑技　１）「袈裟固」

第 11 週　２）「横四方固」

第 12 週　３）「上四方固」

第 13 週　絞技　１）「裸絞」

第 14 週　２）「送襟絞」

第 15 週　既習技の復習

テキスト

教材・参考文献

ビデオ　講道館監修「術から道へ」「柔道上巻」「柔道下巻」

成績評価の方法

定期試験による。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 保険医療福祉と柔道整復の理念 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔　道	１年	前期・(後期)	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 中尾　幸雄 吉良　克哉

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

柔道整復師のルーツである柔道の精神、歴史を学ぶ。柔道の基本動作を身につける。

授業の概要

１．柔道の精神、歴史を理解させる。

２．柔道の技術、審判規定を理解させる。

３．礼法や受身、投技、固技などの基本動作を習得させる。

授業計画

第１週　　投技　立技　４）「背負投」

第２週　　５）「払腰」

第３週　　６）「支釣込足」

第４週　　寝技　抑技　４）「肩固」

第５週　　絞技　３）「片羽絞」

第６週　　既習技の復習

第７週　　連続技　１）「大内刈」～「大外刈」

第８週　　連続技　２）「大外刈」～「大内刈」

第９週　　連続技　３）「大内刈」～「大腰」

第 10 週　連続技　４）「大内刈」～「袈裟固」　「大外刈」～「袈裟固」

第 11 週　連続技　５）「大外刈」～「支釣込足」

第 12 週　既習技の復習　乱取

第 13 週　既習技の復習　乱取

第 14 週　既習技の復習　乱取

第 15 週　既習技の復習　乱取

テキスト

教材・参考文献

講道館柔道試合審判規定

成績評価の方法

定期試験による

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 保険医療福祉と柔道整復の理念 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔　道	２年	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 中尾　幸雄 吉良　克哉

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

柔道整復師のルーツである柔道の精神、歴史を学ぶ。柔道の基本動作を身につける。

授業の概要

１．柔道の精神、歴史を理解させる。

２．柔道の技術、審判規定を理解させる。

３．礼法や受身、投技、固技などの基本動作を習得させる。

４．「投の形」を習得させる。

授業計画

第１週　投の形　手技　１）「浮　落」（右）
第２週　「浮　落」（左）
第３週　２）「背負投」（右）
第４週　「背負投」（左）
第５週　３）「肩　車」（右）
第６週　「肩　車」（左）
第７週　手技復習（手技３本を通して行う）
第８週　投の形　腰技　１）「浮　腰」（右）
第９週　「浮　腰」（左）
第 10 週　２）「払　腰」（右）
第 11 週　「払　腰」（左）
第 12 週　３）「釣込腰」（右）
第 13 週　「釣込腰」（左）
第 14 週　腰技復習（腰技３本を通して行う）
第 15 週　手技・腰技復習

テキスト

教材・参考文献

ビデオ　講道館監修「投の形」

成績評価の方法

定期試験による

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 保険医療福祉と柔道整復の理念 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔　道	２年	前期・(後期)	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 重石　雄大 吉良　克哉

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

柔道整復師のルーツである柔道の精神、歴史を学ぶ。柔道の基本動作を身につける。

授業の概要

１．柔道の精神、歴史を理解させる。

２．柔道の技術、審判規定を理解させる。

３．礼法や受身、投技、固技などの基本動作を習得させる。

４．「投の形」を習得させる。

授業計画

第１週　投の形　足技　１）「送足払」（右）
第２週　「送足払」（左）
第３週　２）「支釣込足」（右）
第４週　「支釣込足」（左）
第５週　３）「内　股」（右）
第６週　「内　股」（左）
第７週　足技復習（足技３本を通して行う）
第８週　腰技・足技復習
第９週　手技復習
第 10 週　腰技復習
第 11 週　足技復習
第 12 週　手技・腰技・足技復習　１）手技３本、腰技３本、足技３本を通して行う
第 13 週　２）手技３本、腰技３本、足技３本を通して行う
第 14 週　３）手技３本、腰技３本、足技３本を通して行う
第 15 週　まとめ

テキスト

教材・参考文献

ビデオ　講道館監修「投の形」

成績評価の方法

定期試験による

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門基礎分野（ 保険医療福祉と柔道整復の理念 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔　道	３年	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 重石　雄大 吉良　克哉

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

柔道整復師のルーツである柔道の精神、歴史を学ぶ。柔道の基本動作を身につける。

授業の概要

１．柔道の精神、歴史を理解させる。

２．柔道の技術、審判規定を理解させる。

３．礼法や受身、投技、固技などの基本動作を習得させる。

４．「投の形」を習得させる。

授業計画

第１週　　投技　立技　７）「体落」

第２週　　８）「出足払」

第３週　　９）「膝車」

第４週　　10）「小内刈」

第５週　　11）「小外刈」

第６週　　応用　１）「乱取」中心の実践的な練習

第７週　　２）「乱取」中心の実践的な練習

第８週　　３）「乱取」中心の実践的な練習

第９週　　投の形　手技復習（手技３本を通して行う）

第 10 週　　腰技復習（腰技３本を通して行う）

第 11 週　　足技復習（足技３本を通して行う）

第 12 週　　手技・腰技・足技復習（各３本ずつ通して行う）

第 13 週　　手技・腰技・足技復習（各３本ずつ通して行う）

第 14 週　　手技・腰技・足技復習（各３本ずつ通して行う）

第 15 週　まとめ

テキスト

教材・参考文献

ビデオ　講道館監修「投の形」

成績評価の方法

定期試験による

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野

専門分野（ 基礎柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復理論Ⅰ	1	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 中尾　幸雄

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

１．柔道整復の専門基礎・専門科目の習得に必要な基本的な用語を理解する。

２．生体の観察・計測等に必要な基本的知識について理解する。

授業の概要

１．柔道整復の専門基礎・専門科目の習得に最小限度必要な人体に関わる用語、解剖学用語、柔整・整形外科用語、医学臨床用語の基礎知識について説明する。

２．プリント、スライド等を必要に応じ配布または使用する。

授業計画

第１週　ガイダンス　　第２週　柔道整復師および柔道整復師の沿革（発祥から現代まで）

第３週　業務範囲について

第４週　人体に加わる力　１）静力学的荷重　２）静力学的能動力　３）静力学負荷変形

第５週　身体の基礎的状態　１）年齢　２）性別　３）栄養状態　４）姿勢、体型　５）四肢の形態とそれに伴う状態　６）体位、肢位

第６週　７）動きに反応する速さの個人差　８）情報の遮断９）他疾患による各組織の病的状態および弱化

第７週　損傷時に加わる力　１）急性　２）亜急性

第８週　３）直達外力　４）介達外力　５）骨の構造

第９週　確認小テストと理解度の確認

第 10 週　骨損傷の概説　１）骨の性状による分類　２）骨損傷の程度による分類

第 11 週　３）骨折線の方向による分類　４）骨折の数による分類　５）外創との交通

第 12 週　外力の働き方による分類　１）～８）分類　骨折の経過による分類

第 13 週　骨折時の局所症状　炎症の５大徴候をもとに

第 14 週　骨折の固有症状　１）異状可動性　２）軋轢音　３）転位と変形

第 15 週　骨折時の全身症状　１）ショック　２）発熱

テキスト　　柔道整復学（理論編）：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂

教材・参考文献

１．解剖学：岸　清・石塚　寛 編　医歯薬出版　　２．標準整形外科学： 医学書院

３．柔道整復学（理論編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

成績評価の方法

中間試験、定期試験の結果で評価する（中間 50%、定期試験 50%）。

評価は筆記試験により行い、60／100 点以上を及第（合格）とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

配布したプリント、参考文献１・２を毎時間持参する。

専門分野（ 基礎柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復理論Ⅰ	1	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 中尾　幸雄

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

１．柔道整復術および柔道整復師の沿革について理解する。

２．柔道整復術の概要、人体に加わる力、損傷に対する身体の基礎的状態ならびに損傷時に加わる力について理解する。

授業の概要

１．テキストを用いてそれぞれのテーマについて説明する。

２．柔道整復術、柔道整復師ならびに損傷発生の基本的なメカニズムについて説明する。

３．必要に応じプリント、視聴覚教材を配布・使用する。

授業計画

第１週	ガイダンス、柔道整復とは	
第２週	柔道整復術および柔道整復師の沿革	
		１）医療の起源と発展、柔道整復の基本概念の成立、海外との交流
第３週		２）江戸時代前期～戦後（第二次世界大戦）
第４週		３）柔道整復師法の成立、国家試験への移行、指導要領の制定
第５週	柔道整復師と柔道	１）柔道と徒手整復術
第６週		２）柔術の活法
第７週		３）柔術の起源と発達
第８週		４）柔道の創設と発展
第９週		５）嘉納治五郎と教育
第 10 週	業務範囲と心得	１）条文、指導要領、柔道整復術、業務禁止と施術制限
第 11 週		２）権能と施術制限、業務範囲と施術限界、X 線と附帯決議、他
第 12 週	柔道整復術とは	
第 13 週	人体に加わる力	
第 14 週	損傷に関する身体の基礎的状態	
第 15 週	損傷時に加わる力	

テキスト

柔道整復学（理論編）：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 基礎柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
				実務経験者（柔道整復師）
柔道整復理論Ⅱ	1	前期・(後期)	(講義)・実習	重石　雄大

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

1．柔道整復の基本的な知識・技術を習得させる。

2．上肢の骨折の各論を習得させる。

授業の概要

1．テキスト用いて上肢骨折の各部位の骨折の特徴・整復法・固定法などを学習する。

2．臨床的ないろいろなケースを想定し対処方法を学習する。

3．写真、資料を用いて多くの症例の評価法と治療法を学習する。

授業計画

第１週　　頭部、顔面の骨折

第２週　　肋骨骨折、肋軟骨骨折

第３週　　胸骨骨折

第４週　　脊椎骨折（頚椎、胸椎、腰椎）

第５週　　鎖骨骨折

第６週　　鎖骨骨折

第７週　　肩甲骨骨折

第８週　　肩甲骨骨折

第９週　　上腕骨近位端部骨折

第 10 週　上腕骨近位端部骨折

第 11 週　上腕骨骨幹部骨折

第 12 週　上腕骨遠位端部骨折

第 13 週　上腕骨遠位端部骨折（顆上、外顆、内側上顆）

第 14 週　上腕骨遠位端部骨折（類症鑑別、合併症）

第 15 週　総復習

テキスト

柔道整復学　理論編　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会

柔道整復学　実技編　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会

教材・参考文献

標準整形外科学　医学書院　監修　石井清一　平澤泰介

上肢骨折の保存療法　医歯薬出版　著　武田功　竹内義享　大村晋司

成績評価の方法　　定期試験の結果で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行い 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 基礎柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
				実務経験者（柔道整復師）
柔道整復理論Ⅱ	2	(前期)・後期	(講義)・実習	重石　雄大

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

１．柔道整復の基本的な知識・技術を習得させる。

２．上肢の骨折の各論を習得させる。

授業の概要

１．テキスト用いて上肢骨折の各部位の骨折の特徴・整復法・固定法などを学習する。

２．臨床的ないろいろなケースを想定し対処方法を学習する。

３．写真、資料を用いて多くの症例の評価法と治療法を学習する。

授業計画

第１週　橈骨近位端部骨折

第２週　肘頭骨折

第３週　橈骨骨幹部単独骨折

第４週　Galeazzi 骨折

第５週　尺骨骨幹部単独骨折

第６週　Monteggia 骨折（伸展型）

第７週　Monteggia 骨折（屈曲型）

第８週　橈尺両骨骨幹部骨折

第９週　前腕遠位端部骨折

第 10 週　Colles 骨折

第 11 週　Colles 骨折

第 12 週　Smith 骨折

第 13 週　背側・掌側 Barton 骨折、Chauffeur 骨折

第 14 週　前腕骨遠位端部骨端線離開

第 15 週　総復習

テキスト

柔道整復学　理論編　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会

柔道整復学　実技編　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会

教材・参考文献

標準整形外科学　医学書院　監修　石井清一　平澤泰介

上肢骨折の保存療法　医歯薬出版　著　武田功　竹内義享　大村晋司

成績評価の方法　定期試験の結果で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行い 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 基礎柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復理論Ⅲ	2	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

下肢に発生する骨折の発生機序、分類、症状、合併症、整復法、固定法、後療法等の基本的な内容について理解する。

授業の概要

テキストを用いて下肢・体幹に発生する骨折の基本的な内容について説明する。
説明には必要に応じプリント、視聴覚機器を配布または使用する。

授業計画

第１週　ガイダンス、下肢に発生する骨折の概要
第２週　下肢の筋（骨盤、大腿～膝）
第３週　下肢の筋（膝～下腿～足指）
第４週　骨盤骨骨折　①骨盤骨単独骨折
第５週　骨盤骨骨折　②骨盤骨環骨折
第６週　大腿骨近位端部骨折　①大腿骨骨頭部骨折
第７週　大腿骨近位端部骨折　②大腿骨頚部骨折Ⅰ
第８週　大腿骨近位端部骨折　②大腿骨頚部骨折Ⅱ　大転子、小転子骨折
第９週　大腿骨骨幹部骨折Ⅰ
第 10 週　大腿骨骨幹部骨折Ⅱ
第 11 週　大腿骨遠位端部骨折　①大腿骨顆上骨折
第 12 週　大腿骨遠位端部骨折　②大腿骨遠位端骨端線離開
第 13 週　大腿骨遠位端部骨折　③大腿骨顆部骨折
第 14 週　大腿骨遠位端部骨折　④内側側副靭帯剥離骨折　⑤膝蓋骨骨折Ⅰ
第 15 週　大腿骨遠位端部骨折　⑤膝蓋骨骨折Ⅱ

テキスト

柔道整復学（理論編）：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂

教材・参考文献

柔道整復学（実技編）：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂
包帯固定学：全国柔道整復学校協会 監修　阿部 光俊 著　南江堂
整形外科学：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂
標準整形外学：寺山 和雄、辻　陽雄 監修　医学書院

成績評価の方法

定期試験（中間試験、期末試験）による評価を行う
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 基礎柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復理論Ⅲ	2	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

下肢に発生する骨折の発生機序、分類、症状、合併症、整復法、固定法、後療法等の基本的な内容について理解する。

授業の概要

テキストを用いて下肢・体幹に発生する骨折の基本的な内容について説明する。
説明には必要に応じプリント、視聴覚機器を配布または使用する。

授業計画

第１週　下腿骨骨折　近位骨端部骨折　①脛骨顆部骨折
第２週　下腿骨骨折　近位骨端部骨折　②脛骨顆間隆起骨折
第３週　下腿骨骨折　近位骨端部骨折　③脛骨粗面骨折　腓骨頭単独骨折
第４週　下腿骨骨折　骨幹部骨折　①脛腓単独骨折　脛腓両骨骨折Ⅰ
第５週　下腿骨骨折　骨幹部骨折　①脛腓単独骨折　脛腓両骨骨折Ⅱ
第６週　下腿骨骨折　骨幹部骨折　①脛腓単独骨折　脛腓両骨骨折Ⅱ　②腓骨頭単独骨折
第７週　下腿骨骨折　骨幹部骨折　③果上骨折
第８週　下腿骨骨折　遠位端部骨折　①果部骨折Ⅰ
第９週　下腿骨骨折　遠位端部骨折　①果部骨折Ⅱ
第 10 週　足・足指骨骨折　①距骨骨折
第 11 週　足・足指骨骨折　②踵骨骨折
第 12 週　足・足指骨骨折　③舟状骨骨折
第 13 週　足・足指骨骨折　④立方骨骨折　⑤楔状骨骨折
第 14 週　中足骨骨折Ⅰ
第 15 週　中足骨骨折Ⅱ　足指骨骨折

テキスト

柔道整復学（理論編）：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂

教材・参考文献

柔道整復学（実技編）：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂
包帯固定学：全国柔道整復学校協会 監修　阿部 光俊 著　南江堂
整形外科学：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂
標準整形外学：寺山 和雄、辻　陽雄 監修　医学書院

成績評価の方法

定期試験（中間試験、期末試験）による評価を行う
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 基礎柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復理論Ⅳ	1	後期	講義	実務経験者（柔道整復師） 宮迫宏治

担当教員の実務経験

柔道整復師として豊富な治療経験を有し、様々な症状の患者と接する。専門学校教員として、人体の動きの基礎となる学問などを担当している。

授業の目標

1．上肢〈体幹含む〉の脱臼について理解する

2．各論の徹底理解

授業の概要

具体的に臨床を混ぜながら解説していく

授業計画

第１週　　顎関節脱臼の特徴と分類、前方脱臼について。
第２週　　整復法、後方脱臼、側方脱臼について
第３週　　鎖骨の脱臼の説明。　胸鎖関節脱臼について
第４週　　肩鎖関節脱臼について
第５週　　肩関節脱臼全般についての導入
第６週　　肩関節前方脱臼について
第７週　　肩関節後方脱臼、肩関節下方脱臼について
第８週　　まとめ
第９週　　肩関節上方脱臼について
第10週　肩関節脱臼の整復法について
第11週　肘関節脱臼全般についての導入
第12週　前腕両骨後方脱臼について
第13週　前腕両骨前方脱臼、前腕両骨外側脱臼について
第14週　前腕両骨内側脱臼、前腕両骨分散脱臼について
第15週　総復習

テキスト

柔道整復学（理論編）全国柔道整復学校協会　監修　　南江堂

教材・参考文献

１．解剖学講義　伊藤　隆　著　　南山堂、
２．標準整形外科学　石井清一　平澤泰介　監修　医学書院

成績評価の方法

中間期末考査と小テストにて
秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）、不可（60点未満）とする。

備考

学生に、楽しく、興味を持たせながら授業を進める。

専門分野（ 基礎柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復理論Ⅳ	2	前期	講義	実務経験者（柔道整復師） 宮迫宏治

担当教員の実務経験

柔道整復師として豊富な治療経験を有し、様々な症状の患者と接する。専門学校教員として、人体の動きの基礎となる学問などを担当している。

授業の目標

各論の専門的知識を臨床と織り交ぜながら理解させる。

授業の概要

１．黒板に教科書に載っていない捕捉を書く。

２．図を用いて、分かりやすく説明する。

授業計画

第１週　橈骨頭単独脱臼、肘内障について

第２週　手関節・手指部の脱臼の導入。遠位橈尺関節の脱臼、橈骨手根関節の脱臼について

第３週　月状骨脱臼、月状骨周囲脱臼について

第４週　手根中手関節脱臼、第１中手指節関節脱臼、第１指以外の中手指節関節脱臼について

第５週　近位指節間関節脱臼について

第６週　遠位指節間関節脱臼について

第７週　股関節脱臼導入、後方脱臼について

第８週　まとめ

第９週　股関節前方脱臼・中心性脱臼について

第１０週　膝蓋骨脱臼について

第１１週　膝関節脱臼全般と前方脱臼について

第１２週　膝関節後方脱臼・側方脱臼・回旋脱臼について

第１３週　ショパール関節脱臼について

第１４週　中足、足指部の脱臼について

第１５週　総復習

テキスト

柔道整復学（理論編）全国柔道整復学校協会　監修　　南江堂

教材・参考文献

１．解剖学講義　伊藤　隆　著　　南山堂、

２．標準整形外科学　石井清一　平澤泰介　監修　医学書院

成績評価の方法

中間期末考査と小テスト

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

いつも明るく楽しく、学生に興味を持たせながらやる

専門分野（ 基礎柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復理論Ⅴ	1	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 甲斐　優太郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

１学年次の軟部組織損傷（総論）の基礎の上に、２学年次の各論で日常生活やスポーツなどで上肢、下肢、体幹に発生する一般的な軟部組織損傷・疾患の実際を理解する。

授業の概要

１.「柔道整復理論」をテキストとして使用する。

２. 担当教員が日常生活やスポーツなどで上肢、下肢、体幹に発生する一般的な軟部組織損傷・疾患の発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断を説明する。

授業計画

第１週　頭部、顔面の軟部組織損傷　A．顎関節症

第２週　胸部の軟部組織損傷　A．胸肋関節損傷　B．肋間筋損傷

第３週　脊椎の軟部組織損傷　A．頸部捻挫　B．頸部の疾患

第４週　〃　C．胸背部の軟損　D．腰部の軟損

第５週　〃　E．腰部の疾患

第６週　上肢の軟部組織損傷　A．肩部の軟損　①腱板の損傷

第７週　〃　②上腕二頭筋長頭腱損傷　③疼痛と運動制限を伴う肩

第８週　〃　③疼痛と運動制限を伴う肩　④持続性の異常感覚を生じる肩

第９週　〃　⑤スポーツによる障害　⑥鑑別診断を要する類症

第 10 週　〃　B．上腕部の軟部組織損傷

第 11 週　〃　C．肘部の軟部組織損傷　①内側上顆炎

②外側上顆炎　③内側側副靭帯損傷

第 12 週　〃　D．前腕部の軟部組織損傷

第 13 週　〃　E．手関節・手指部の軟部組織損傷

①遠位橈尺関節の損傷 ②手関節・手指部の損傷 ③指の損傷

第 14 週　〃　F．手関節・手指部の変形および腱損傷①マーデンベルグ変形　②デュビュイトレイン拘縮　③ド・ケルバン病　④ばね指

第 15 週　〃　⑤ヘバーデン結節 ⑥ボタン穴変形 ⑦マレットフィンガー ⑧スワンネック変形

テキスト

「柔道整復理論」:（社）全国柔道整復学校協会　監修南江堂

教材・参考文献　標準整形外科学　医学書院

成績評価の方法

定期試験（中間試験、期末試験）による

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 基礎柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復理論Ⅴ	2	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 甲斐　優太郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

１学年次の軟部組織損傷（総論）の基礎の上に、２学年次の各論で日常生活やスポーツなどで上肢、下肢、体幹に発生する一般的な軟部組織損傷・疾患の実際を理解する。

授業の概要

１.「柔道整復理論」をテキストとして使用する。

２. 担当教員が日常生活やスポーツなどで上肢、下肢、体幹に発生する一般的な軟部組織損傷・疾患の発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断を説明する。

授業計画

第１週	A．股関節の軟部組織損傷	①股関節部におけるいわゆる捻挫などに伴う疼痛、拘縮、跛行
第２週	B．大腿部の軟部組織損傷	①大腿四頭筋損傷　②ハムストリングス損傷
第３週	C．膝関節部の軟部組織損傷	
第４週	D．下腿部の軟部組織損傷	①下腿三頭筋損傷
第５週	〃	②コンパートメント症候群
第６週	〃	③アキレス腱断裂
第７週	〃	④アキレス腱炎・周囲炎
第８週	〃	⑤踵骨、アキレス腱間滑液包炎
第９週	E．足部の軟部組織損傷	①距腿関節の損傷
第 10 週	〃	②Chopart 関節の損傷　③リスフラン関節損傷
第 11 週	〃	④足指部の損傷
第 12 週	〃	⑤足部の変形
第 13 週	〃	⑥足指の変形
第 14 週	〃	⑦腓骨筋腱脱臼　⑧足根管症候群
第 15 週	〃	⑨足底腱膜炎　⑩中足部痛

テキスト

「柔道整復理論」　（社）全国柔道整復学校協会　監修　　南江堂

教材・参考文献

標準整形外科学　　医学書院

成績評価の方法

定期試験（中間試験、期末試験）による

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅰ	2	後期	講義	実務経験者（柔道整復師） 宮迫宏治

担当教員の実務経験

柔道整復師として豊富な治療経験を有し、様々な症状の患者と接する。専門学校教員として、人体の動きの基礎となる学問などを担当している。

授業の目標

習った事をより広い学問と絡めながら、多角的に見ていく

自分で考えて、創造的な解釈をする訓練をする。

授業の概要

リハビリテーションとの関わりを教える。

人の体について、どのように関節が動くかを教える。

筋肉や骨などの生理学的解剖を絡めて教える。

授業計画

第１週　　リハビリテーションの概念。柔道整復学とリハビリテーションの実践

第２週　　機能形態障害に対するアプローチ。症状と実際の心理状況。

第３週　　筋肉の状態と外傷の理論。腰痛とリハビリテーション。

第４週　　頸椎捻挫とリハビリテーション。腱鞘炎とリハビリテーション。

第５週　　足関節捻挫とリハビリテーション。膝関節損傷とリハビリテーション。

第６週　　肩関節脱臼とリハビリテーション。股関節脱臼とリハビリテーション。

第７週　　指関節の脱臼とリハビリテーション。まとめ。

第８週　　腰痛に関する装具。膝関節損傷に関する装具。

第９週　　頸椎脱臼損傷に対するリハビリの考察。頸椎損傷に対する装具。

第 10 週　頸椎損傷の予後。肩関節の運動学と整復学。

第 11 週　肘関節の運動学と整復学。股関節の運動学と整復学。

第 12 週　足関節の運動学と整復学。神経の構造と障害学。

第 13 週　姿勢と痛みの関連性。

第 14 週　歩行分析学。歩行とエネルギー消費。

第 15 週　総復習

テキスト

運動学　斎藤　宏　著　医歯薬出版株式会社

リハビリテーション　三上　真弘　編　　南江堂

教材・参考文献

解剖学講義　伊藤　隆　著　　南山堂、　　標準整形外科学　石井清一　平澤泰介　監修　医学書院

基本生理学　坂東武彦　小山省三　監訳　　西村書店

成績評価の方法

中間期末考査と小テスト・授業中の実技の成績

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

いつも明るく楽しく、学生に興味を持たせながらやる

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅱ	2	前期・(後期)	(講義)・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 中尾　幸雄

担当教員の実務経験

柔道整復師として整形外科や整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目を担当している。

授業の目標

骨・関節・軟部組織損傷の評価・判定に用いる超音波・X線等・その他の画像診断について、装置の構造、動作原理と特性、検査法など基本的な知識を習得する。

また、各装置で撮影した画像を見ることで外傷・障害の実際について理解する。

授業の概要

１．教員が配布する資料をもとに、超音波画像診断装置を中心に各種診断装置の構造、動作原理と特性、検査法など基本的な項目について説明する。

２．各装置で撮影した画像を見ることで骨・関節・軟部組織損傷に発生する外傷・障害の実際について知識を深める。

授業計画

第１週	ガイダンス、画像診断の目的・必要性	
第２週	超音波装置	１）装置・診断の歴史、装置の基礎（構造、動作原理と特性）
第３週		２）画像の基礎
第４週		３）検査方法
第５週		４）画像の実際　①骨・関節の損傷
第６週		５）画像の実際　②軟部組織の損傷
第７週	Ｘ　線	１）装置・診断の歴史、装置の基礎（構造、動作原理と特性）
第８週		２）画像の基礎
第９週		３）検査方法
第 10 週		４）画像の実際　骨・関節・軟部組織の損傷
第 11 週	その他	１）ＣＴ・ＭＲＩ装置・診断の歴史、装置の基礎（構造、動作原理と特性）
第 12 週		２）画像の基礎
第 13 週		３）検査方法
第 14 週	４）画像の実際　骨・関節・軟部組織の損傷	第 15 週　まとめ

テキスト　整形外科学：安部光俊 著　南江堂

教材・参考文献　１．画像診断マニュアル：梶田 明義 他編　金芳堂

２．骨・関節の画像診断：大野 藤吾 編　中外医学社

３．ここまでわかる単純Ｘ線写真：安河内 浩 他著　診断と治療社

４．入門　運動器の超音波観察法　日本超音波骨軟組織学会　編

成績評価の方法　定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行い 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅱ	3	(前期)・後期	(講義)・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

骨・関節・軟部組織損傷の評価・判定に用いる超音波・X線等・その他の画像診断について、装置の構造、動作原理と特性、検査法など基本的な知識を習得する。

また、各装置で撮影した画像を見ることで外傷・障害の実際について理解する。

授業の概要

１．教員が配布する資料をもとに、超音波画像診断装置を中心に各種診断装置の構造、動作原理と特性、検査法など基本的な項目について説明する。

２．各装置で撮影した画像を見ることで骨・関節・軟部組織損傷に発生する外傷・障害の実際について知識を深める。

授業計画

第１週　　ガイダンス、画像診断の目的・必要性
第２週　　超音波装置　１）手指　母指屈筋腱の描出
第３週　　２）手関節　手根骨、手根管、伸筋腱の区画の描出
第４週　　３）肘関節　前方、後方、内側、外側の描出（骨、肘部管、靭帯）
第５週　　４）肩関節　上腕骨頭、関節窩、関節裂隙の描出
第６週　　５）肩関節　上腕二頭筋、腱板、関節唇の描出
第７週　　６）下腿　脛骨、距腿関節、外果の関節
第８週　　７）下腿　脛腓靭帯、距腓靭帯、踵腓靭帯、腓骨筋腱の描出
第９週　　８）下腿　三角靭帯、足根管、腓腹筋、ヒラメ筋、アキレス腱の描出
第 10 週　　９）膝関節　膝蓋上嚢、大腿四頭筋、膝蓋骨、膝蓋大腿関節の描出
第 11 週　　10）膝関節　膝蓋腱、十字靭帯、側副靭帯、半月、鵞足の描出
第 12 週　　11）膝関節　腸脛靭帯、大腿二頭筋、ファベラの描出
第 13 週　　12）股関節　腸腰筋、直筋、上前腸骨棘、下前腸骨棘の描出
第 14 週　　13）股関節　ハムストリング、坐骨神経、内転筋の描出　　第 15 週　　まとめ

テキスト　　整形外科学：安部光俊 著　南江堂

教材・参考文献

１．画像診断マニュアル：梶田 明義 他編　金芳堂２．骨・関節の画像診断：大野 藤吾 編　中外医学社
３．ここまでわかる単純Ｘ線写真：安河内 浩 他著　診断と治療社
４．入門　運動器の超音波観察法　日本超音波骨軟組織学会　編

成績評価の方法　　定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行い 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅲ	2	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 宮迫　宏治

担当教員の実務経験

柔道整復師として豊富な治療経験を有し、様々な症状の患者と接する。専門学校教員として、人体の動きの基礎となる学問などを担当している。

授業の目標

頭部・体幹部・上肢に発生する脱臼についての理解をさらに深めるとともに、固定法や治癒に向けての指導法を学ぶ。臨床に役立つ実践力を身につける。

授業の概要

「柔道整復学　理論編」・「柔道整復学　実技編」を用い、脱臼の発生機序・特徴・固定法を学ぶ。
柔道整復術の素晴らしさを伝え、今後の学習意欲の向上につなげる。

授業計画

第１週　ガイダンス・脱臼総論について
第２週　頭部（顎関節）の脱臼の特徴
第３週　顎関節脱臼の整復法・固定法
第４週　体幹部の脱臼とその治療
第５週　鎖骨脱臼の特徴
第６週　鎖骨脱臼の整復法・固定法
第７週　肩関節脱臼の特徴
第８週　肩関節脱臼の整復法・固定法
第９週　肘関節脱臼の特徴
第 10 週　肘関節脱臼の整復法・固定法
第 11 週　手関節脱臼の特徴
第 12 週　手関節脱臼の整復法・固定法
第 13 週　手指関節脱臼の特徴
第 14 週　手指関節脱臼の整復法・固定法
第 15 週　まとめ

テキスト

柔道整復学　理論編：全国柔道整復学校協会 監修　　南江堂
柔道整復学　実技編：全国柔道整復学校協会 監修

教材・参考文献

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。実技の理解度確認のため、必要に応じ実技テストをおこなう。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅲ	3	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 宮迫　宏治

担当教員の実務経験

柔道整復師として豊富な治療経験を有し、様々な症状の患者と接する。専門学校教員として、人体の動きの基礎となる学問などを担当している。

授業の目標

骨盤部および下肢に発生する脱臼についての理解をさらに深めるとともに､固定法や治癒に向けての指導法を学ぶ。臨床に役立つ実践力を身につける。

授業の概要

「柔道整復学　理論編」・「柔道整復学　実技編」を用い、脱臼の発生機序・特徴・固定法を学ぶ。
柔道整復術の素晴らしさを伝え、今後の学習意欲の向上につなげる。

授業計画

第１週　　ガイダンス・脱臼総論について
第２週　　骨盤部・下肢部の筋肉
第３週　　股関節・膝関節・足関節の特徴とその運動
第４週　　股関節脱臼の特徴
第５週　　股関節脱臼の整復法・固定法
第６週　　膝関節脱臼の特徴
第７週　　膝関節脱臼の整復法・固定法
第８週　　足関節脱臼の特徴
第９週　　足関節脱臼の整復法・固定法
第 10 週　　足指関節脱臼の特徴
第 11 週　　足指関節脱臼の整復法・固定法
第 12 週　　下肢の脱臼と軟部組織損傷
第 13 週　　下肢の脱臼と観血療法
第 14 週　　下肢の脱臼とリハビリ
第 15 週　　まとめ

テキスト

柔道整復学　理論編：全国柔道整復学校協会 監修　　南江堂
柔道整復学　実技編：全国柔道整復学校協会 監修

教材・参考文献

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。実技の理解度確認のため、必要に応じ実技テストをおこなう。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅳ	3	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

下肢・体幹部に発生する骨折の発生機序、分類、症状、合併症、整復法、固定法、後療法等の基本的な内容について理解する。柔道整復の業務、また国家試験受験に必要な骨折の各論（下肢・体幹）に関する基本的な知識の再確認を行う。

授業の概要

テキストならびにその他の資料を用いて柔道整復の業務を行うために必要な下肢・体幹の骨折に関する骨折の内容を再確認するとともに、国家試験受験の準備を行う。

なお、必要に応じ視聴覚教材を使用する。

授業計画

第１週　ガイダンス、下肢に発生する骨折の概要
第２週　下肢　下肢帯　骨盤骨単独骨折、骨盤骨環骨折
第３週　大腿骨　１）近位骨端部骨折
第４週　２）骨幹部骨折
第５週　３）遠位骨端部骨折
第６週　膝蓋骨　膝蓋骨骨折
第７週　下腿骨　１）近位骨端部骨折
第８週　２）骨幹部骨折
第９週　３）遠位骨端部骨折
第 10 週　足根骨　距骨、
第 11 週　踵骨骨折
第 12 週　舟状骨、立方骨、楔状骨骨折
第 13 週　中足骨　中足骨の骨折
第 14 週　足指骨　足指骨の骨折　第 15 週　まとめ

テキスト　柔道整復学（理論編）：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂

教材・参考文献

柔道整復学（実技編）：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂
包帯固定学：全国柔道整復学校協会 監修　阿部 光俊 著　南江堂
整形外科学：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂
標準整形外学：寺山 和雄、辻　陽雄 監修　医学書院

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。なお、定期試験は筆記試験を行い 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅳ	3	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

下肢・体幹部の骨折の基本的な整復法、固定法、後療法を習得する。

授業の概要

１．テキストを用いて下肢の骨折の基本的な整復法、固定法、後療法を説明する。
　　なお、必要に応じ視聴覚機器を使用する。
２．実習は原則として２人１組で行うが内容により３～４人で行う。

授業計画

第１週	下肢　大腿骨	１）頸部骨折
第２週		２）骨幹部骨折
第３週		３）膝蓋骨　膝蓋骨骨折
第４週	下腿骨	１）下腿骨骨幹部骨折
第５週		２）果部骨折　①回内外転損傷　②回外内転損傷
第６週		２）果部骨折　③回内・外旋損傷　④回外・外旋損傷
第７週	足根骨	１）舟状骨骨折
第８週	足根骨	１）距骨骨折
第９週		１）踵骨骨折　①水平骨折、戴距突起骨折
第 10 週	中足骨	１）骨幹部骨折　２）第５中足骨基底部裂離骨折　３）足指骨骨折
第 11 週	下　肢	１）股関節部の包帯（上行・下行麦穂帯）
第 12 週		２）大腿部の包帯（大腿部の包帯、麦穂帯）
第 13 週		３）膝関節部の包帯（離開・集合亀甲帯）
第 14 週		４）下腿部の包帯（下腿部の包帯、麦穂帯）
第 15 週		５）足関節部の包帯

テキスト

柔道整復学（実技編）：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂

教材・参考文献

柔道整復学（理論編）：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂
標準整形外科学：寺山 和雄、辻　陽雄 監修　医学書院

成績評価の方法

定期試験の結果で評価する。　試験は実技試験を行い 100 点満点で 60 点以上を合格とする。
なお、評価に平常評価（出席、態度等）を加味することがある。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅳ	3	前期・後期	講義・実習	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

柔道整復の業務を行うにあたり、患者の状態を評価するための基本的な所見の取り方や日常よくある内科的疾患について習得する。

授業の概要

プリント・スライドを用いて臨床上必要な内科疾患について学ぶ。

授業計画

第１週　診察の意義・進め方　問診
第２週　視診　打診　触診について
第３週　生命徴候
第４週　知覚検査
第５週　呼吸器疾患
第６週　循環器疾患
第７週　消化器疾患
第８週　肝・胆・膵疾患
第９週　代謝・栄養疾患
第 10 週　内分泌疾患　甲状腺・副甲状腺疾患
第 11 週　血液・造血疾患
第 12 週　腎・尿路疾患
第 13 週　神経疾患
第 14 週　リウマチ性疾患・アレルギー性疾患・免疫不全症
第 15 週　感染症・性病　環境要因による疾患　各検査の基準値

テキスト

一般臨床医学：全国柔道整学校協会 監修　奈良 信雄,吉沢 靖之,椎名 晋一 著　医歯薬出版社

教材・参考文献

STEP 内科　高橋 茂樹（著）　板垣 英二

成績評価の方法

定期試験の結果で評価する。
評価は実技試験により行い、60／100 点以上を及第（合格）とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅳ	3	前期・後期	講義・実習	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

柔道整復の業務を行うにあたり、応急処置時に必要な外科的疾患や患者の状態を評価するための基本的な所見の取り方を習得する。

授業の概要

プリント・スライドを用いて臨床上必要な外科疾患について学ぶ。

授業計画

第１週　総論
第２週　外傷、頭部・ムチ打ち症　胸部・腹部外傷
第３週　感染症、急性および慢性炎症
第４週　腫瘍　①良性腫瘍　②悪性腫瘍
第５週　ショックの病理
第６週　輸血および輸液、高カロリー輸液
第７週　滅菌と消毒、
第８週　手術法　麻酔法
第９週　移植と免疫
第 10 週　心肺蘇生術、
第 11 週　出血と止血
第 12 週　脳神経外科疾患
第 13 週　胸壁・肺・縦隔疾患　乳腺疾患
第 14 週　心臓疾患　脈管疾患
第 15 週　代表的腹部外科疾患

テキスト

一般臨床医学：全国柔道整学校協会 監修　奈良 信雄,吉沢 靖之,椎名 晋一 著　医歯薬出版社
外科学：全国柔道整学校協会 監修　炭山嘉伸　編　南江堂

教材・参考文献

STEP 内科　高橋 茂樹（著） 板垣 英二
STEP 外科〈1〉外科総論・脳神経外科　小林 士郎・小田 行一郎

成績評価の方法

定期試験の結果で評価する。
評価は実技試験により行い、60／100 点以上を及第（合格）とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
				実務経験者（柔道整復師）
臨床柔道整復学Ⅴ	3	(前期)・後期	(講義)・実習	重石　雄大

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

１．臨床上頻度の高い骨折の理解と固有の症状を学習する。

２．１．２年次に習得した知識をさらに機能的、解剖学的に追求する。

授業の概要

１．テキスト用いて上肢骨折の各部位の骨折の特徴・整復法・固定法などを学習する。

２．臨床的ないろいろなケースを想定し対処方法を学習する。

３．写真、資料を用いて多くの症例の評価法と治療法を学習する。

授業計画

第１週　手根骨骨折（舟状骨骨折）
第２週　手根骨骨折（月状骨骨折、三角骨骨折、有鉤骨骨折）
第３週　中手骨頭部骨折
第４週　中手骨頚部骨折（ボクサー骨折、パンチ骨折）
第５週　中手骨骨幹部骨折
第６週　中手骨基底部骨折
第７週　overlapping finger
第８週　Bennett 骨折
第９週　Roland 骨折
第 10 週　指骨骨折
第 11 週　基節骨骨折
第 12 週　中節骨骨折
第 13 週　末節骨骨折
第 14 週　Mallet　finger
第 15 週　総復習

テキスト　柔道整復学　理論編　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会
柔道整復学　実技編　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会

教材・参考文献

標準整形外科学　医学書院　監修　石井清一　平澤泰介

上肢骨折の保存療法　医歯薬出版　著　武田功　竹内義享　大村晋司

成績評価の方法

定期試験の結果で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行い 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
				実務経験者（柔道整復師）
臨床柔道整復学Ⅴ	3	前期・(後期)	(講義)・実習	重石　雄大

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

１．臨床上頻度の高い骨折の理解と固有の症状を学習する。

２．１．２年次に習得した知識をさらに機能的、解剖学的に追求する。

授業の概要

１．テキスト用いて臨症上重要な骨折の特徴・整復法・固定法などを学習する。

２．解剖学的知識をベースに考察し最善の治療方法を追求してゆく。

３．写真、資料を用いて多くの症例の評価法と治療法を学習する。

授業計画

第１週　鎖骨骨折（定型骨折）

第２週　上腕骨外科頚外転型骨折

第３週　上腕骨近位端部骨折（hanging　cast 法）

第４週　上腕骨骨幹部螺旋状骨折

第５週　上腕骨顆上伸展型骨折

第６週　上腕骨外顆回転骨折

第７週　上腕骨内側上顆骨折（肘関節脱臼との合併）

第８週　Monteggia 伸展型骨折

第９週　前腕骨遠位端部骨折（Colles 骨折）

第 10 週　前腕骨遠位端部骨折（Smith 骨折）

第 11 週　Bennett 骨折

第 12 週　中節骨骨骨折（浅指屈筋腱付着部による転位と固定）

第 13 週　舟状骨骨折

第 14 週　Mallet　finger　　第 15 週　総復習

テキスト

柔道整復学　理論編　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会

柔道整復学　実技編　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会

教材・参考文献

標準整形外科学　医学書院　監修　石井清一　平澤泰介

上肢骨折の保存療法　医歯薬出版　著　武田功　竹内義享　大村晋司

成績評価の方法

定期試験の結果で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行い 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床整復学Ⅴ	3	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 甲斐　優太郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

外傷の基礎知識の理解を深め、臨床に向けてのベースを確実にする。

授業の概要

１.「柔道整復学・実技編」をテキストとして使用する。また必要に応じプリント、ＯＨＰ、スライドを配布または使用する。

２．一般的な骨折の分類・症状・合併症・治癒過程・予後などを説明する。

３．理解を確認するため項目ごとに小テストを行う。

授業計画

第１週　　ガイダンス

第２週　　柔道整復術　業務、骨折・脱臼・軟部組織損傷の施術

第３週　　損傷の診察　観察および問診、触診、機能的診察、鑑別疾患

第４週　　合併症の有無を判定する、その他治療法に関する情報の提示

第５週　　説明と同意　状況説明、予後の説明、応急処置の説明

第６週　　徒手整復

第７週　　固定法

第８週　　整復・整復後の確認、整復状態の確認、医科との連携、固定期間の検討

第９週　　後療法　固定、経過、物理療法、手技療法、運動療法

第 10 週　　治癒の判定　骨強度

第 11 週　　治癒の判定　関節可動域の判定

第 12 週　　治癒の判定　筋力の回復

第 13 週　　治癒の判定　持久力の回復

第 14 週　　運動協調性の回復

第 15 週　　まとめ

テキスト・教材・参考文献

１．柔道整復理論　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会

２．標準整形外科学　医学書院　監修　石井清一　平澤泰介

成績評価の方法

１．中間・期末に筆記試験を実施する。

２．授業出席日数の２／３以上の出席者を評価の対象とする。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床整復学Ⅴ	3	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 甲斐　優太郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

外傷の基礎知識の理解を深め、臨床に向けてのベースを確実にする。

授業の概要

柔道整復理論を学ぶ際の、解剖学や生理学の知識や人体に加わる力や損傷などについて学び、臨床との繋がりを示していきその知識をこれから学ぶ各論や実際の臨床に活かせる様な思考法を身に付けさせる。

授業計画

第１週　　ガイダンス
第２週　　肩部の痛みを訴える患者を診察するときの考え方
　　外側、前方、前外側
第３週　　肩部の痛みを訴える患者を診察するときの考え方
　　後外方、肩峰部、肩甲骨部
第４週　　肩部に間接的な外力が加わった場合
　　外転位で手掌を衝いて生じた損傷の場合
第５週　　肩部に間接的な外力が加わった場合
　　内転位で肘部を衝いて生じた損傷の場合
第６週　　肩部に間接的な外力が加わった場合
　　外転位で肘部を衝いて生じた損傷の場合
第７週　　明確な原因がない場合　野球、バレーボール、テニス
第８週　　明確な原因がない場合　水泳、体操競技、重量物
第９週　　整形外科における診断の実状　骨折の診断
第１０週　　整形外科における診断の実状　脱臼の診断
第１１週　　整形外科における診断の実状　肩腱板損傷の診断
第１２週　　整形外科における診断の実状　骨端成長軟骨板の損傷の診断
第１３週　　整形外科における診断の実状　筋損傷の診断
第１４週　　まとめ
第１５週　　期末テスト

テキスト

柔道整復学（理論編）全国柔道整復学校協会　監修　南江堂

教材・参考文献

解剖学講義　伊藤　隆　著　　南山堂、標準整形外科学　石井清一　平澤泰介　監修　医学書院

成績評価の方法　　中間期末テスト及び小テスト

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅵ	3	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

運動器（骨・筋肉・関節）についての認識を深めるとともに、各器官つながりや神経との関係を理解する。重要用語をしっかりと理解し、国家試験に対する実践力を身につける。

授業の概要

「運動学」を使用し、運動学の基礎や重要な項目を理解する。必要に応じプリントや関節模型を使用し、より深い知識の習得を目指す。

授業計画

第１週　ガイダンス・運動学とは
第２週　運動の表示方法（　基本姿勢・面と軸・関節運動　）
第３週　身体運動と力学（　てこ・運動法則・力学的エネルギー）
第４週　運動器の構造と機能
第５週　神経の構造と機能
第６週　運動と感覚
第７週　反射と随意運動
第８週　姿勢と重心
第９週　歩行　・・・　歩行周期　・　歩行分析
第 10 週　歩行　・・・　歩行時の筋活動　・　歩行時のエネルギー代謝
第 11 週　歩行　・・・　異常歩行
第 12 週　運動発達
第 13 週　運動学習
第 14 週　関節可動域と測定法
第 15 週　まとめ

テキスト

運動学：全国柔道整復学校協会 監修　　斎藤　宏　編　　医歯薬出版

教材・参考文献

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅵ	3	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

臨床現場に関わるうえで重要な関節運動に対する理解を深め、臨床に役立つ実践力を身につける。関節の動きだけではなく、関節の構成もしっかりと認識する。

授業の概要

「運動学」を使用し、関節運動や構成、特徴をしっかりと理解する。必要に応じプリントや関節模型を使用し、より深い知識の習得を目指す。

授業計画

第１週　ガイダンス・関節運動の種類
第２週　上肢帯の構成と運動（　鎖骨　・　肩甲骨　）
第３週　肩関節の構成と運動
第４週　肘関節の構成と運動
第５週　手関節・手指関節の構成と運動
第６週　股関節の構成と運動
第７週　膝関節の構成と運動
第８週　足関節・足指関節の構成と運動
第９週　体幹と脊柱の構成と運動
第 10 週　頚椎の運動
第 11 週　胸椎と胸郭の運動
第 12 週　腰椎と仙骨の運動
第 13 週　骨盤の構成と運動
第 14 週　顔面・頭部の運動
第 15 週　まとめ

テキスト

運動学：全国柔道整復学校協会 監修　　斎藤　宏　編　　医歯薬出版

教材・参考文献

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅵ	3	(前期)・後期	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 宮迫　宏治

担当教員の実務経験

柔道整復師として豊富な治療経験を有し、様々な症状の患者と接する。専門学校教員として、人体の動きの基礎となる学問などを担当している。

授業の目標

柔道整復師として臨床現場に出るための基礎知識の認識を深めるとともに､臨床で役立つリハビリテーション学を学ぶ。

授業の概要

「柔道整復学　理論編」・「リハビリテーション医学」を用い、柔道整復師として必要な知識を身につける。必要に応じてプリントを配布し、実技の練習もおこなう。

授業計画

第１週　ガイダンス・リハビリテーションとは
第２週　リハビリテーション医学　・・・　障害のレベルとアプローチ
第３週　リハビリテーション医学　・・・　障害の受容と対象疾患
第４週　リハビリテーション医学の基礎　・・・　運動と機能解剖
第５週　リハビリテーション医学の基礎　・・・　姿勢と歩行
第６週　リハビリテーション医学の基礎　・・・　障害学(拘縮・萎縮・神経麻痺)
第７週　リハビリテーション医学の基礎　・・・　治療学（拘縮予防と可動域訓練）
第８週　リハビリテーション医学の基礎　・・・　治療学（筋力増強訓練・麻痺筋の再教育）
第９週　評価と診断　・・・　患者の捉え方
第 10 週　評価と診断　・・・　身体計測
第 11 週　評価と診断　・・・　小児の運動発達
第 12 週　評価と診断　・・・　失認と失行
第 13 週　日常生活動作の評価
第 14 週　心理評価
第 15 週　まとめ

テキスト

リハビリテーション医学：全国柔道整復学校協会 監修　三上　真弘　編　南江堂
柔道整復学　理論編：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂

教材・参考文献

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床柔道整復学 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床柔道整復学Ⅵ	3	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 宮迫　宏治

担当教員の実務経験

柔道整復師として豊富な治療経験を有し、様々な症状の患者と接する。専門学校教員として、人体の動きの基礎となる学問などを担当している。

授業の目標

柔道整復師として臨床現場に出るために必要なリハビリテーション医学について学ぶ。より具体的な疾患に対する治療法およびリハビリテーションについて理解を深める。

授業の概要

「柔道整復学　理論編」・「リハビリテーション医学」を用い、柔道整復師として必要な知識を身につける。必要に応じてプリントを配布し、実技の練習もおこなう。

授業計画

第１週　ガイダンス・リハビリテーションの治療法とは
第２週　理学療法と作業療法
第３週　補装具について
第４週　言語治療について
第５週　リハビリテーション医学と関連職種
第６週　脳卒中の特徴とリハビリテーション
第７週　脊髄損傷の特徴
第８週　脊髄損傷のリハビリテーション
第９週　小児疾患の特徴とリハビリテーション
第 10 週　切断の適応とリハビリテーション
第 11 週　末梢神経損傷とリハビリテーション
第 12 週　関節リウマチの特徴とリハビリテーション
第 13 週　整形外科疾患とリハビリテーション
第 14 週　高齢者のリハビリテーション
第 15 週　リハビリテーションと福祉法

テキスト

リハビリテーション医学：全国柔道整復学校協会 監修　三上　真弘　編　南江堂
柔道整復学　理論編：全国柔道整復学校協会 監修　南江堂

教材・参考文献

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅰ	1	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

柔道整復術をより深く学ぶために基礎となる運動器の機能解剖や関節運動の様式を学ぶ。また、固定や運動療法などに必要な体表解剖について理解を深める。

授業の概要

「柔道整復学　理論編」・「解剖学」を用い、運動器の基礎的知識、体表解剖の基礎知識を学ぶ。
必要に応じてプリントを配布し、より詳しい知識の習得に努める。

授業計画

第１週　ガイダンス・運動器について
第２週　全身の骨格について
第３週　体幹部の骨格
第４週　上肢の骨格
第５週　下肢の骨格
第６週　頭部の骨格
第７週　骨格筋総論
第８週　頚部・胸部の筋
第９週　腹部・背部の筋
第 10 週　上肢の筋
第 11 週　下肢の筋
第 12 週　体幹部の関節
第 13 週　上肢の関節
第 14 週　下肢の関節
第 15 週　体表解剖

テキスト

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版

教材・参考文献

柔道整復学　理論編：全国柔道整復学校協会 監修　　南江堂

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅰ	1	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

柔道整復師として必要となる触診力を身につける。触診の指標となる骨・筋肉の位置を明確に理解し、臨床現場で役立つ力を養う。

授業の概要

2 人 1 組になってテーマごとに触診をおこなう。骨・筋肉・関節の位置をしっかりと覚え、その部位で発生する外傷や受傷後の変化などを意識しながら触診力を身につける。

授業計画

第１週　ガイダンス・触診の基礎
第２週　肩関節・上腕部の触診　・・・　鎖骨・肩峰・肩鎖関節・胸鎖関節・肩峰と上腕骨の間隙
第３週　肩関節・上腕部の触診　・・・　大結節・小結節・結節間溝・烏口突起・肩甲骨
第４週　肘関節・前腕部の触診　・・・　上腕骨各部
第５週　肘関節・前腕部の触診　・・・　ヒューター線・肘頭・橈骨頭
第６週　手関節部の触診　・・・　橈骨茎状突起・スナフボックス・第１手根中手関節
第７週　手関節部の触診　・・・　大菱形骨・尺骨茎状突起・三角骨・リスター結節
第８週　手関節部の触診　・・・　有頭骨・月状骨・舟状骨結節
第９週　手関節部の触診　・・・　豆状骨・有鉤骨・中手骨・指骨
第 10 週　肩関節前方脱臼の外観・ＳＬＡＰ損傷
第 11 週　ルーズショルダーの確認方法・ｔｅａｒ　ｄｒｏｐ　ｓｉｇｎ
第 12 週　下垂指変形・急性塑性変形
第 13 週　腱板疎部・後方四角腔
第 14 週　三角線維軟骨複合体損傷・手根管症候群
第 15 週　まとめ

テキスト

柔道整復学　理論編：全国柔道整復学校協会 監修　　南江堂

教材・参考文献

カラー写真で学ぶ　四肢関節の触診法　　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。実技の理解度確認のため、必要に応じ実技テストをおこなう。
なお、定期試験は 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅰ	1	前期・(後期)	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

柔道整復師として接することも多い高齢者の解剖学的特徴・機能的特徴を学ぶ。高齢者の身体の特徴を理解したうえで、発生頻度の高い外傷とその治療法を認識し、受傷しないための身体づくりを学ぶ。

授業の概要

「柔道整復学　理論編」・「解剖学」を用い、高齢者の身体の特徴や発生頻度の高い外傷を学ぶ。外傷予防につながる体操やトレーニングを紹介し、実践力を身につける。

授業計画

第１週　ガイダンス・高齢者の身体的特徴について
第２週　高齢者の骨の特徴と骨粗鬆症
第３週　高齢者の筋肉の特徴と筋力低下
第４週　高齢者の関節の特徴と関節拘縮
第５週　高齢者に発生しやすい外傷・治療上の注意点
第６週　椎骨の圧迫骨折と治療法
第７週　上腕骨外科頚骨折と治療法
第８週　腱板断裂と治療法
第９週　コーレス骨折と治療法
第 10 週　大腿骨頚部骨折と治療法
第 11 週　変形性膝関節症と治療法
第 12 週　高齢者のスポーツ外傷と予防
第 13 週　高齢者のリハビリテーション
第 14 週　高齢者の機能訓練（　体操・トレーニング　）
第 15 週　まとめ

テキスト

柔道整復学　理論編：全国柔道整復学校協会 監修　　南江堂
柔道整復学　実技編；全国柔道整復学校協会 監修　　南江堂

教材・参考文献

解剖学：全国柔道整復学校協会　監修　岸　清　・　石塚　寛　編　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。
なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅰ	1	前期・(後期)	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

柔道整復師として必要となる触診力を身につける。触診の指標となる骨・筋肉の位置を明確に理解し、臨床現場で役立つ力を養う。

授業の概要

2 人 1 組になってテーマごとに触診をおこなう。骨・筋肉・関節の位置をしっかりと覚え、その部位で発生する外傷や受傷後の変化などを意識しながら触診力を身につける。

授業計画

第１週　触診時の配慮と技術
第２週　股関節部の触診　・・・　腸骨稜・上前腸骨棘・下前腸骨棘
第３週　股関節部の触診　・・・　大腿骨頭・大転子・坐骨結節
第４週　大腿三角・ローゼルネラトン線
第５週　膝関節部の触診　・・・　膝蓋骨・膝蓋靭帯・膝蓋内側滑膜ヒダ
第６週　膝関節部の触診　・・・　脛骨粗面・関節裂隙・鵞足部
第７週　膝関節部の触診　・・・　脛骨内側縁・外側側副靭帯・内側側副靭帯
第８週　膝関節部の触診　・・・　腸脛靭帯・腓骨頭・下腿三頭筋
第９週　Ｑ角・関節包と膝蓋下脂肪体・サギング徴候
第 10 週　足関節部の触診　・・・　外果・第 5 中足骨粗面・前距腓靭帯
第 11 週　足関節部の触診　・・・　足根洞・長短腓骨筋腱・踵骨前方突起
第 12 週　足関節部の触診　・・・　内果・舟状骨結節・足背動脈
第 13 週　足関節部の触診　・・・　中足骨・アキレス腱・足底腱膜
第 14 週　アキレス腱断裂・足底腱膜炎
第 15 週　まとめ

テキスト

柔道整復学　理論編：全国柔道整復学校協会 監修　　南江堂

教材・参考文献

カラー写真で学ぶ　四肢関節の触診法　　医歯薬出版

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。実技の理解度確認のため、必要に応じ実技テストをおこなう。
なお、定期試験は 100 点満点の 60 点以上を合格とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅱ	1	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

１．巻軸包帯を用いて基本的な包帯法・材料・用具を目的に応じ選択できるようになる。

２．材料・用具を安全に使用できるようになる。

授業の概要

１．基本的な包帯法（被覆包帯）ならびに特殊包帯（固定包帯）について教員が説明・示範し、学生はそれを模倣し習得する。

２．プリント、OHP、スライド等を必要に応じ配布または使用する。

授業計画

第１週　ガイダンス、上手な巻軸帯の巻き方と注意事項

第２週　被覆包帯　巻軸帯の巻き戻し、基本包帯法

第３週　手指部の包帯

第４週　包か帯

第５週　手関節部の包帯　手（手関節）上行麦穂帯　下行麦穂帯

第６週　上腕部の包帯

第７週　前腕部の包帯　　前腕部の包帯

第８週　前腕の麦穂帯

第９週　肘部の包帯　　肘（肘関節）離開亀甲帯　肘（肘関節）集合亀甲帯

第 10 週　肩部の包帯　　上行　下行麦穂帯

第 11 週　特殊包帯（固定包帯）　デゾー包帯①　Ⅰ・Ⅱ帯

第 12 週　　デゾー包帯②　Ⅲ・Ⅳ帯

第 13 週　足指部の包帯　　鐙帯　　第 14 週　　総趾包か帯

第 15 週　足関節部の包帯　足（足関節）上行麦穂帯　下行麦穂帯

テキスト　　包帯固定学：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会　編集　南江堂

教材・参考文献

１．柔道整復学（実技編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

２．柔道整復学（理論編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

成績評価の方法

平常評価（出席、態度）、定期試験の結果で評価する（平常評価 20%、定期試験 80%）。

評価は総合評価により行い、60／100 点以上を及第（合格）とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

１．短パン、T シャツ（特殊包帯時のみ）を毎時間持参する。

２．配布したプリント、参考文献１・２を毎時間持参する

専門分野（ 柔道整復実技 ）　　１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅱ	1	前期・(後期)	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

1．巻軸包帯を用いて基本的な包帯法・材料・用具を目的に応じ選択できるようになる。
2．材料・用具を安全に使用できるようになる。
3．基本的な四肢および体幹の固定ができるようになる。

授業の概要

1．基本的な包帯法（被覆包帯）ならびに特殊包帯（固定包帯）について教員が説明・示範し、学生はそれを模倣し習得する。
2．プリント、OHP、スライド等を必要に応じ配布または使用する

授業計画

第１週　踵の包帯（亀甲帯・三節帯）
第２週　下腿部の包帯　　下腿部の包帯
第３週　下腿の麦穂帯　　第４週　膝部の包帯　　膝（膝関節）離開亀甲帯
第５週　　膝（膝関節）集合亀甲帯
第６週　大腿部・股関節部の包帯
第７週　絆創膏固定・テーピング（絆創膏）：胸郭部の固定　　p132～142
第８週　絆創膏固定・テーピング（非伸縮性テープ）：下腿部の固定
第９週　絆創膏固定・テーピング（非伸縮性テープ）：足関節の固定
第 10 週　絆創膏固定・テーピング（伸縮性テープ）：膝関節の固定
第 11 週　硬性材料　　クラーメル副子：上肢の固定
第 12 週　　クラーメル副子：下肢の固定
第 13 週　吸水硬化性キャスト材①（ギプス）：手関節の固定
第 14 週　熱可塑性キャスト材①（プライトン）：母指の固定
第 15 週　熱可塑性キャスト材②（ソフトキャスト）：足関節の固定

テキスト　包帯固定学：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会　編集　南江堂
『標準理学療法学　物理療法学』：奈良　勲 監修　医学書院

教材・参考文献

1．柔道整復学（実技編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂
2．柔道整復学（理論編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

成績評価の方法

平常評価（出席、態度）、定期試験の結果で評価する（平常評価 20%、定期試験 80%）。
評価は総合評価により行い、60／100 点以上を及第（合格）とする。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考　1．短パン、T シャツ（特殊包帯時のみ）を毎時間持参する。
2．配布したプリント、参考文献１・２を毎時間持参する

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅱ	2	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

１年次に学んだ包帯法の基本的な知識・技術の上に、臨床を想定した実習を行い柔道整復の業務における包帯の実際を習得する。

授業の概要

１．テキスト・資料をもとに教員が臨床において発生する上肢・下肢・体幹の運動器損傷に対する包帯法について示範し、学生はそれを模倣しその技術を習得する。

授業計画

第１週	被覆包帯	上　肢	１）肩関節部の包帯（上行・下行麦穂帯）
第２週			２）上腕部の包帯（上腕部の包帯、麦穂帯）
第３週			３）肘関節部の包帯（離開・集合亀甲帯)、前腕部の包帯
第４週			４）手関節部の包帯（上行・下行麦穂帯）
第５週			５）指部の包帯　①隻指帯、全指帯
第６週			６）指部の包帯　②指頭包か帯、母指の麦穂帯
第７週		下　肢	１）股関節部の包帯（上行・下行麦穂帯）
第８週			２）大腿部の包帯（大腿部の包帯、麦穂帯）
第９週			３）膝関節部の包帯（離開・集合亀甲帯）
第 10 週			４）下腿部の包帯（下腿部の包帯、麦穂帯）
第 11 週			５）足関節部の包帯　①（麦穂帯）
第 12 週	固定包帯	上　肢	１）デゾー氏の包帯
第 13 週			２）提肘三角巾
第 14 週		胸背部	３）胸・背・胸背十字帯　　第 15 週　まとめ

テキスト

包帯固定学：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会　編集　南江堂

教材・参考文献

１．柔道整復学（実技編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

２．柔道整復学（理論編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

成績評価の方法

平常評価（出席、態度)、定期試験の結果で評価する（平常評価 20%、定期試験 80%)。

評価は総合評価により行い、60／100 点以上を及第（合格）とする。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

１．短パン、T シャツを毎時間持参する。

２．配布したプリント、参考文献１・２を毎時間持参する

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅱ	2	前期・(後期)	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 奈須　崇倫

担当教員の実務経験

柔道整復師としてスポーツ現場等、多くの臨床経験を有する。専門学校教員として、臨床現場での基礎となる実技や疾病に関する科目を担当する。

授業の目標

柔道整復師への社会的要請の一つである競技者の外傷予防に対し、新たに追加する競技者の生理学的特徴・変化で得た知識を活用し、競技者に対する具体的な外傷予防の手法を身に付けるために行う。

授業の概要

１．競技者が怪我をしない身体づくり、トレーニング法、テーピング等を学び実践する。

２．プリント、OHP、スライド等を必要に応じ配布または使用する。

授業計画

第１週　ガイダンス　総論（スポーツ外傷とは）
第２週　外科的スポーツ外傷、障害の基礎知識（頚部・肩部）
第３週　外科的スポーツ外傷、障害の基礎知識（上肢）
第４週　外科的スポーツ外傷、障害の基礎知識（下肢）
第５週　外科的スポーツ外傷、障害の基礎知識（体幹）
第６週　スポーツ現場での具体的対応
第７週　怪我をしない身体づくり（トレーニング・ストレッチ法）（概説）
第８週　怪我をしない身体づくり（トレーニング・ストレッチ法）（頚部）
第９週　怪我をしない身体づくり（トレーニング・ストレッチ法）（肩部）
第 10 週　怪我をしない身体づくり（トレーニング・ストレッチ法）（上肢）
第 11 週　怪我をしない身体づくり（トレーニング・ストレッチ法）（下肢）
第 12 週　怪我をしない身体づくり（トレーニング・ストレッチ法）（体幹）
第 13 週　テーピング法（肩関節）
第 14 週　テーピング法（膝関節）　第 15 週　テーピング法（足関節）

テキスト

１．包帯固定学：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

２．柔道整復学（実技編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

教材・参考文献

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は実技試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

１．常に臨床の現場に立っていることを頭において真摯な態度で実技を行うこと。また、授業中は必ず白衣（またはケーシー）を着用し、学生証を提示すること

２．実技の内容により脱衣が必要になるので、脱衣可能な衣服を用意すること

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅲ	2	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

治療法の基礎知識の理解を深め、各論に向けてのベース確実にする。

授業の概要

１.「柔道整復理論」をテキストとして使用する。また必要に応じプリント、ＯＨＰ、スライドを配布または使用する。

２．一般的な外傷の分類・症状・合併症・治癒過程・予後などを説明する。

３．理解を確認するため項目ごとに小テストを行う。

授業計画

第１週　　ガイダンス

第２週　　評価　１）注意点　２）手順　３）問診の進め方　４）患者の体位　５）身体評価の流れ
６）初期評価、中間評価、最終評価

第３週　　施術録の扱いと記載

第４週　　整復法（骨折）　１）非観血的整復の要点　２）一般原則　３）分類（牽引直圧、屈曲）
４）牽引整復法

第５週　　整復法（脱臼）　１）非観血的整復の要点　２）一般原則　３）分類（槓杆、牽引）

第６週　　軟部組織損傷の初期処置　１）捻挫　２）筋損傷　３）腱損傷　４）神経損傷
５）血管　６）皮膚

第７週　　固定法　１）目的　２）種類　３）肢位　４）期間　５）範囲　６）材料　７）装具

第８週　　固定法　１）厚紙副子、すだれ副子

第９週　　固定法　２）金属副子

第 10 週　　固定法　３）アルミ副子

第 11 週　　固定法　４）ギプスとキャスト材　有褥ギプス

第 12 週　　固定法　４）ギプスとキャスト材　無褥ギプス

第 13 週　　固定法　４）ギプスとキャスト材　歩行ギプス

第 14 週　　固定法　４）ギプスとキャスト材　ギプスシーネ　　第 15 週　　まとめ

テキスト・教材・参考文献

１．柔道整復理論　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会

２．標準整形外科学　医学書院　監修　石井清一　平澤泰介

成績評価の方法

１．中間・期末に筆記試験を実施する。

２．授業出席日数の２／３以上の出席者を評価の対象とする。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅲ	2	前期・(後期)	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

治療法の基礎知識の理解を深め、各論に向けてのベース確実にする。

授業の概要

１.「柔道整復理論」をテキストとして使用する。また必要に応じプリント、ＯＨＰ、スライドを配布または使用する。

２．一般的な外傷の分類、症状、合併症・治癒過程、予後などを説明する。

３．理解を確認するため項目ごとに小テストを行う。

授業計画

第１週　後療法　手技療法　１）軽摩法　２）強擦法　３）揉捏法

第２週　後療法　手技療法　４）叩打法　５）振戦法　６）圧迫法　７）伸長法

第３週　後療法　手技療法　応用　１）局所的な応用　２）遠隔部への応用　３）禁忌

第４週　後療法　運動療法　運動の基本型　１）他動運動　２）自動運動

第５週　後療法　運動療法　運動の基本型

１）等尺性収縮　２）等張性収縮　３）遠心性収縮　４）求心性収縮

第６週　後療法　運動療法　全身運動療法

第７週　後療法　運動療法　実際

第８週　中間テスト

第９週　物理療法　１）分類　２）安全対策　３）適応と禁忌

第１０週　物理療法　１）電気療法

第１１週　物理療法　２）温熱療法　３）寒冷療法

第１２週　物理療法　４）光線療法

第１３週　物理療法　５）脊椎牽引療法　６）間欠的圧迫法

第１４週　指導管理

第１５週　期末テスト

テキスト

柔道整復学（理論編）全国柔道整復学校協会　監修　南江堂

教材・参考文献

解剖学講義　伊藤　隆　著　　南山堂、標準整形外科学　石井清一　平澤泰介　監修　医学書院

成績評価の方法

中間期末テスト及び小テスト

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅲ	2	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 重石　雄大

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

柔道整復の技術の素晴らしさ、難しさを知り、認定実技審査の項目を重点的に指導する。

実習に必要な基礎的な知識の習得。

授業の概要

１.「柔道整復学　実技編」をテキストとして使用する。また必要に応じプリント、スライドを配布または使用する。

２．各部位の骨折の特徴・整復法・固定法などを学習する。

３．理解を確認するため項目ごとに小テストと実技を行う。

授業計画

第１週　　鎖骨骨折（診察）

第２週　　鎖骨骨折（整復法）

第３週　　鎖骨骨折（固定法）

第４週　　上腕骨外科頚骨折（診察）

第５週　　上腕骨外科頚骨折（整復法）

第６週　　上腕骨外科頚骨折（固定）

第７週　　上腕骨顆上骨折（診察）

第８週　　上腕骨顆上骨折（整復法）

第９週　　上腕骨顆上骨折（固定）

第 10 週　　コーレス骨折（診察）

第 11 週　　コーレス骨折（整復法）

第 12 週　　コーレス骨折（固定）

第 13 週　　実習前の指導（評価法、諸注意）

第 14 週　　施術録（カルテ）の記載方法・取扱いなど　　第 15 週　　前期末試験

テキスト

柔道整復学　実技編　南江堂　監修　社）全国柔道整復学校協会

教材・参考文献

１．標準整形外科学　医学書院　監修　石井清一　平澤泰介

２．上肢骨折の保存療法　医歯薬出版　著　武田功　竹内義享　大村晋司

成績評価の方法

１．中間・期末に実技試験を実施する。

２．授業出席日数の２／３以上の出席者を評価の対象とする。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅲ	2	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 重石　雄大

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

臨床（上肢骨折）において学ぶべき基礎的な知識を習得する。

授業の概要

柔道整復理論を学ぶ際の、解剖学や生理学の知識や人体に加わる力や損傷などについて学び、臨床との繋がりを示していきその知識をこれから学ぶ各論や実際の臨床に活かせる様な思考法を身に付けさせる。

授業計画

第１週　　ガイダンス
第２週　　骨折　鎖骨（中央・遠位１／３境界部骨折）
第３週　　骨折　上腕骨外科頚骨折
第４週　　骨折　上腕骨近位骨端線離開
第５週　　骨折　上腕骨骨幹部骨折
第６週　　骨折　上腕骨顆上骨折
第７週　　骨折　上腕骨内側上顆骨折
第８週　　骨折　橈骨近位端部骨折
第９週　　骨折　肘頭骨折
第１０週　骨折　モンテギア骨折・橈尺両骨骨幹部骨折
第１１週　骨折　コーレス骨折・スミス骨折
第１２週　骨折　手舟骨骨折・ベネット骨折
第１３週　骨折　中手骨骨折
第１４週　骨折　手骨骨折
第１５週　　期末テスト

テキスト

柔道整復学（理論編）全国柔道整復学校協会　監修　南江堂

教材・参考文献

解剖学講義　伊藤　隆　著　　南山堂、標準整形外科学　石井清一　平澤泰介　監修　医学書院

成績評価の方法

中間期末テスト及び小テスト
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅳ	1	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 甲斐　優太郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

柔道整復理論で習得した基礎をふまえ、臨床の場で患者に適切な治療を施せるように必要な技術と知識を身につける。

授業の概要

１.「柔道整復学実技編」をテキストとして使用する。

２. 担当教員が日常生活やスポーツなどで上肢、下肢、体幹に発生する一般的な軟部組織損傷・疾患の発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断を説明し、実際に整復、固定、検査法などを習得させる。

授業計画

第１週	肩腱板損傷	概説　発生機序　症状　問診　視診　触診　運動診
第２週	〃	テスト法
第３週	〃	テスト法　鑑別診断
第４週	〃	固定　後療法　指導管理　予後　プログラム
第５週	上腕二頭筋長頭腱損傷	概説　発生機序　症状
第６週	〃	検査法
第７週	〃	治療　固定　後療法　指導管理　予後
第８週	内側側副靭帯損傷	概説　発生機序　患者の肢位
第９週	〃	鑑別診断　治療
第１０週	〃	治療　固定
第１１週	〃	後療法　指導管理　予後
第１２週	マレットフィンガー	概説　発生機序
第１３週	〃	分類　受傷頻度　患者の肢位
第１４週	〃	定型的転位　臨床症状　整復
第１５週	〃	固定　後療法　指導管理　予後

テキスト

「柔道整復学実技編」　（社）全国柔道整復学校協会　監修　南江堂

教材・参考文献

標準整形外科学　医学書院

成績評価の方法

定期試験（中間試験、期末試験）による

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅳ	1	前期・(後期)	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 甲斐　優太郎

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有する。専門学校教員として人体の構造や機能等、柔道整復学を学ぶに当たっての基礎となる科目・実技を担当している。

授業の目標

柔道整復理論で習得した基礎をふまえ、臨床の場で患者に適切な治療を施せるように必要な技術と知識を身につける。

授業の概要

１.「柔道整復学実技編」をテキストとして使用する。

２. 担当教員が日常生活やスポーツなどで上肢、下肢、体幹に発生する一般的な軟部組織損傷・疾患の発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断を説明し、実際に整復、固定、検査法などを習得させる。

授業計画

第１週　大腿四頭筋損傷　概説　発生機序　症状
第２週　〃　治療法　後療法　指導管理　注意事項・予後
第３週　ハムストリングス損傷　概説　発生機序　症状
第４週　〃　治療法　後療法　指導管理
第５週　膝関節側副靭帯損傷　概説　発生機序　症状
第６週　〃　診断法　治療　固定　全体のプログラム
第７週　前および後十字靭帯損傷　概説　発生機序　症状
第８週　〃　検査法　治療　固定　全体のプログラム
第９週　半月損傷　発生機序　症状
第 10 週　〃　検査法
第 11 週　〃　固定　全体のプログラム
第 12 週　アキレス腱・下腿三頭筋損傷　概説　病因　病態　発生機序　症状
第 13 週　〃　診断　治療法　固定法
第 14 週　足関節周辺の損傷　発生機序　症状　診断　検査
第 15 週　〃　治療　固定　指導管理　全体のプログラム

テキスト

「柔道整復学実技編」　（社）全国柔道整復学校協会　監修　南江堂

教材・参考文献

標準整形外科学　医学書院

成績評価の方法

定期試験（中間試験、期末試験）による

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅳ	3	前期	実習	実務経験者（柔道整復師） 宮迫宏治

担当教員の実務経験

柔道整復師として豊富な治療経験を有し、様々な症状の患者と接する。専門学校教員として、人体の動きの基礎となる学問などを担当している。

授業の目標

実際に理論で学んだことを施術する。

授業の概要

実際の臨床の現場を前提に注意深く事を行えるよう指導する。

何度も繰り返し練習させる。

頭と手をリンクさせて、行えるよう指導する。

授業計画

第１週　肩関節、及びその周囲の解剖の説明。
第２週　　肩鎖関節脱臼の整復について
第３週　　肩鎖関節脱臼の固定について
第４週　　肩鎖関節脱臼の後療について
第５週　　肩関節脱臼の整復について
第６週　　肩関節脱臼の固定について
第７週　　肩関節脱臼の後療について
第８週　　まとめ
第９週　　肘及びその周囲の解剖の説明
第 10 週　肘関節脱臼の整復について
第 11 週　肘関節脱臼の固定について
第 12 週　肘関節脱臼の後療について
第 13 週　肘内障の整復、固定について
第 14 週　肘内障の後療と、注意事項について。
第 15 週　総復習

テキスト

柔道整復学（実技編）　全国柔道整復学校協会・教科書委員会編集　　南江堂

教材・参考文献

解剖学講義　伊藤　隆　著　　南山堂

標準リハビリテーション医学　津山直一　監修　　医学書院

成績評価の方法

中間期末試験と小テスト

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

楽しく、飽きさせないように。

専門分野（ 柔道整復実技 ）　　１単位３０時間

授業科目　（スポーツトレーナー）	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅴ	3	前期・(後期)	(講義)・実習	実務経験者（柔道整復師） 重石　雄大

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院に勤務し、外傷治療の経験を有する。その後、専門学校教員として上肢骨折の講義や実技を担当している。

授業の目標

１．生涯を通した快適なスポーツライフの構築を図り、望ましい社会の実現に貢献するため、その中心となるスポーツ指導者を育成する。２．安全で正しく、楽しいスポーツ活動の場を確保する。

授業の概要

１．資料を用いて外傷と障害及び鑑別診断上重要な疾患について説明する。

２．講義は日本体育協会「公認スポーツ指導者養成テキスト」をベースに考察し、スポーツの役割や責任及び指導内容について説明する。

３．視覚に訴えたほうが良いと思われる内容では人体模型やスライドなどの機材を使用する。

授業計画

第１週　指導者の役割　1）スポーツ指導者の倫理　2）指導者の心構え、視点

第２週　文化としてのスポーツ　1）スポーツの概念と歴史　2）文化としてのスポーツ

第３週　トレーニング論　1）体力とは　2）トレーニングの進め方　3）トレーニングの種類

第４週　医学的知識　1）スポーツと健康　2）スポーツ活動中に多いケガや病気（内科）　3）（外科）

第５週　4）救急処置（救急蘇生法）　5）救急処置（外科的救急処置）

第６週　スポーツと栄養　1）スポーツと栄養

第７週　指導計画と安全管理　1）指導計画の立て方　2）スポーツ活動と安産管理

第８週　ジュニア期のスポーツ　1）発育発達期の身体的特徴　2）発育発達期の心理的特徴

第９週　3）発育発達期に多いケガや病気　4）発育発達期プログラム

第 10 週　地域におけるスポーツ振興　1）スポーツ振興方策と行政　2）総合型地域スポーツクラブ

第 11 週　社会の中のスポーツ　1）我が国のスポーツプロモーション

第 12 週　スポーツと法　1）事故における指導者の法的責任　2）スポーツと人権

第 13 週　スポーツの心理　1）スポーツと心　2）スポーツにおける動機づけ　3）コーチングの心理

第 14 週　スポーツ組織の運営と事業

第 15 週　対象に合わせたスポーツ指導　1）中高年とスポーツ　2）女性とスポーツ

テキスト　柔道整復学理論編（南江堂）

教材・参考文献

１．日本体育協会「公認スポーツ指導者養成テキスト」共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

２．日本体育協会「公認アスレティックトレーナー専門テキスト」①～⑦

成績評価の方法　定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

１．予習・復習を行うこと。　２．講義内容について不明な点は放置せず積極的に質問すること。

３．講義中の私語は他の学生の集中や理解を妨げとなるので慎む。

専門分野（ 柔道整復実技 ）

１単位３０時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
柔道整復実技Ⅵ	3	前期・(後期)	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

１．柔道整復の専門基礎・専門科目の習得に必要な基本的な用語を理解する。

２．生体の観察・計測等に必要な基本的知識について理解する。

３．認定実技審査に向け理解を深める。

授業の概要

１．柔道整復の専門基礎・専門科目の習得に最小限度必要な人体に関わる用語、解剖学用語、柔整・整形外科用語、医学臨床用語の基礎知識について説明する。

２．人体模型、プリント、OHP、スライド等を必要に応じ配布または使用する。

授業計画

第１週　　頚部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域　４）頚部の理学的検査

第２週　　肩部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第３週　　肩部の理学的検査

第４週　　肘部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第５週　　肘部の理学的検査

第６週　　手部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第７週　　手部の理学的検査

第８週　　腰部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第９週　　腰部の理学的検査

第１０週　股関節部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域　４）股関節部の理学検査

第１１週　膝部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第１２週　膝部の理学的検査

第１３週　足部　１）骨の触診　２）軟部組織の触診　３）可動域

第１４週　足部の理学的検査

第１５週　試験

テキスト　　柔道整復学（理論編）（実技編）

教材・参考文献

１．解剖学：岸　清・石塚　寛 編　医歯薬出版

２．運動学：斉藤　宏 著　医歯薬出版

３．柔道整復学（理論編）：社団法人 全国柔道整復学校協会・教科書委員会 編集　南江堂

成績評価の方法

定期試験の成績で評価する。

なお、定期試験は筆記試験を行ない 100 点満点の 60 点以上を合格とする。

秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考　　配布したプリント、参考文献１・２を毎時間持参する。

臨床実習

専門分野（ 臨床実習 ）

１単位４５時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床実習	2	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅 専任教員

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

臨床教育の総括的な場として、柔道整復師が必要とする総合力を身に付ける。また医療現場で患者とのコミュニケーションの大切さを学び、将来柔道整復師として働く者としての自覚を高めることを目的とする

授業の概要

教員の指導の下、患者に対して問診、物理療法、触診、各種検査法を行う。

治療担当教員の施術補助をおこなう。

授業計画

第１週	治療所見学		受付業務	①
第２週	治療所見学		受付業務	②
第３週	治療所見学		受付業務	③
第４週	治療所見学		受付業務	④
第５週	治療所見学		受付業務	⑤
第６週	問診	検査	施術補助	①
第７週	問診	検査	施術補助	②
第８週	問診	検査	施術補助	③
第９週	問診	検査	施術補助	④
第 10 週	問診	検査	施術補助	⑤
第 11 週	問診	検査	施術補助	⑥
第 12 週	問診	検査	施術補助	⑦
第 13 週	問診	検査	施術補助	⑧
第 14 週	問診	検査	施術補助	⑨
第 15 週	問診	検査	施術補助	⑩

テキスト

教材・参考文献

柔道整復学・理論編

成績評価の方法

担当教員が総合して評価する。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床実習 ）

１単位４５時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床実習	2	前期・(後期)	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅 専任教員

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

臨床教育の総括的な場として、柔道整復師が必要とする総合力を身に付ける。また医療現場で患者とのコミュニケーションの大切さを学び、将来柔道整復師として働く者としての自覚を高めることを目的とする

授業の概要

教員の指導の下、患者に対して問診、物理療法、触診、各種検査法を行う。

治療担当教員の施術補助をおこなう。

授業計画

第１週　治療所見学　受付業務　①
第２週　治療所見学　受付業務　②
第３週　治療所見学　受付業務　③
第４週　治療所見学　受付業務　④
第５週　治療所見学　受付業務　⑤
第６週　物理療法の補助　①
第７週　物理療法の補助　②
第８週　物理療法の補助　③
第９週　物理療法の補助　④
第 10 週　物理療法の補助　⑤
第 11 週　問診　検査　施術補助　①
第 12 週　問診　検査　施術補助　②
第 13 週　問診　検査　施術補助　③
第 14 週　問診　検査　施術補助　④
第 15 週　問診　検査　施術補助　⑤

テキスト

教材・参考文献

柔道整復学・理論編

成績評価の方法

担当教員が総合して評価する。

秀（90 点以上)、優（80 点以上)、良（70 点以上)、可（60 点以上)、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床実習 ）

１単位４５時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床実習	3	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅 専任教員

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

臨床教育の総括的な場として、柔道整復師が必要とする総合力を身に付ける。また医療現場で患者とのコミュニケーションの大切さを学び、将来柔道整復師として働く者としての自覚を高めることを目的とする

授業の概要

教員の指導の下、患者に対して問診、物理療法、触診、各種検査法を行う。
治療担当教員の施術補助をおこなう。
介護施設で機能訓練の補助をおこなう。

授業計画

第１週　治療所見学　受付業務　①
第２週　治療所見学　受付業務　②
第３週　治療所見学　受付業務　③
第４週　治療所見学　受付業務　④
第５週　治療所見学　受付業務　⑤
第６週　問診　検査　施術補助　①
第７週　問診　検査　施術補助　②
第８週　問診　検査　施術補助　③
第９週　問診　検査　施術補助　④
第 10 週　問診　検査　施術補助　⑤
第 11 週　機能訓練　補助　①
第 12 週　機能訓練　補助　②
第 13 週　機能訓練　補助　③
第 14 週　機能訓練　補助　④
第 15 週　機能訓練　補助　⑤

テキスト

教材・参考文献

柔道整復学・理論編

成績評価の方法

担当教員が総合して評価する。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考

専門分野（ 臨床実習 ）

１単位４５時間

授業科目	対象学年	学期	講義方法	担当教員
臨床実習	3	(前期)・後期	講義・(実習)	実務経験者（柔道整復師） 山川　和毅 専任教員

担当教員の実務経験

柔道整復師として整骨院での実務経験を有し、幅広い症状の治療を行う。専門学校教員として柔道整復学の基礎科目を担当している。

授業の目標

臨床教育の総括的な場として、柔道整復師が必要とする総合力を身に付ける。また医療現場で患者とのコミュニケーションの大切さを学び、将来柔道整復師として働く者としての自覚を高めることを目的とする

授業の概要

教員の指導の下、患者に対して問診、物理療法、触診、各種検査法を行う。
治療担当教員の施術補助をおこなう。
施術録の記載方法やレセプトによる請求方法を学ぶ

授業計画

第１週　治療所見学　受付業務　①
第２週　治療所見学　受付業務　②
第３週　治療所見学　受付業務　③
第４週　治療所見学　受付業務　④
第５週　治療所見学　受付業務　⑤
第６週　問診　検査　施術補助　①
第７週　問診　検査　施術補助　②
第８週　問診　検査　施術補助　③
第９週　問診　検査　施術補助　④
第 10 週　施術録の記載方法　①
第 11 週　施術録の記載方法　②
第 12 週　施術録の記載方法　③
第 13 週　レセプトによる請求方法　①
第 14 週　レセプトによる請求方法　②
第 15 週　臨床実習のまとめ

テキスト

教材・参考文献

柔道整復学・理論編

成績評価の方法

担当教員が総合して評価する。
秀（90 点以上）、優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）とする。

備考